

タル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第七號書式ノ申請書

二 第二十五條第二號ノ書類

三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第四十六條 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第四十七條 第十六條第一項ノ規定ハ認印ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ

有セス

第四十八條 公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第五章 手数料

第四十九條 手数料ノ額左ノ如シ

一 船員手帖ノ交付又ハ書換

一部ニ付

貳拾錢

二 船員手帖ノ訂正

船員法第三條第二項ノ事項一個ニ付

五錢

三 報告書ノ認證

一通ニ付

壹圓

四 船長就職又ハ退職ノ認證

一件ニ付

貳拾錢

五 公認

被雇者一人ニ付

拾錢

但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ

被雇者一人ニ付

五 錢

六 公認ノ認證

一件ニ付

五 錢

外國ニ於テ手数料ヲ納付スヘキトキハ其額ハ左ノ規定ニ依ル(三十三年遞信省令第七十八號ヲ以テ本項追加)

一 報告書ノ認證

一通ニ付

貳 圓

二 船長就職又ハ退職ノ認證

一件ニ付

四 拾 錢

三 公認

被雇者一人ニ付

貳 拾 錢

但船員法第四十三條ノ場合ニハ

被雇者一人ニ付

拾 錢

四 公認ノ認證

一件ニ付

拾 錢

前二項ノ手数料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前二項ニ定ムル所ノ二倍トス(同上ヲ以テ改正)

第五十條 前條第一項第一號ノ手数料ハ第八號書式ノ手数料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前條第一項第二號乃至第六號ノ手数料ハ遞信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第六章 罰則

第五十一條 第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第三十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者又ハ第二十二條ハ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺産ヲ差出ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第五十二條 本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ被雇者(海員)氏名、浦役人檢印及事故摘要ノ欄ヲ除ク外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下、被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

第五十五條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 前二條ノ場合ニ於テ當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 海員ノ雇止、雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲ス

第五十九條 船員法施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ

一 船舶ノ名稱、番號、積量、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

二 海員ノ氏名及本籍地

三 雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ從事シタル職務及給料

四 雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由

第六十條 從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合セタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲スト

キ其各葉ニ契約スヘシ

第六十一條 第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ掲グル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス

第六十二條 最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六ヶ月間ニ雇入ノ公認ヲ受ケル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲シタルトキ其裏面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ
(書式ハ略ス)

〔参照〕

三十二年法律第四十七號船員法(前項)

同年勅令第二百四十三號船員手帖ノ交付訂正書換等ニ關スル手数料ノ件

同年逓信省告示第七十七號手数料納付場所

船舶職員法

明治二十九年四月
法律第六十八號

船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條、海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條、海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等運轉士

三等機關士

第四條、各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第五條、海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登録ヲ受ケタル

者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ海員試験規程ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ用キスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條、左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ海員試験ヲ受ケルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執務ニ不適當ナル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條、高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ、

乙種船長ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、

乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種二等運轉士ノ免狀ニ對シ、丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、

各高等ノ免狀トス

機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ免狀ニ對シ、

二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第八條、左ニ掲グル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乗組マシメサル者
 - 二、第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ船舶職員ト爲リタル者
 - 三、第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者
 - 四、海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者
 - 五、海技免狀行使ノ假停止若ハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執リタル者
 - 第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス
- 前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

附則

- 第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
- 第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第十二條 明治九年第八十二號布告同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム
- 前項ニ掲ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得
- 第十三條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス
- 第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乗組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行

ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歳以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り試験ヲ用キス
シテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條 遞信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登簿噸數五百噸未満ノ漁船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ漁船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乗組マシメサルコトヲ得

(表ハ略ス)

〔參照〕

- 三十年遞信省令第九號海技免狀交換規程
- 同年同省令第十號百五十石積以上帆船乗組者海技免狀授與ノ件
- 三十二年遞信省令第四十七號海技免狀取扱規則(次項)

●海技免狀取扱規則

明治三十二年十月 遞信省令第四十七號

海技免狀取扱規則

- 第一條 船舶職員法第五條第一項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ海員試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ
- 第二條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ海員試験ヲ執行スル管海官廳ニ體格檢査ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ履歷書及身分書(海員試験規程第十條ノ規定ニ依ル)並海軍艦船艇ニ乗組ミ運航又ハ機關運轉ニ從事シタル者ニ在リテハ最後任官ノ辭令書ノ寫、商船學校全科卒業生ニ在リテハ卒業證書ノ寫ヲ差出シ且辭令書又ハ卒業證書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ
前項ノ履歷書ニ掲クル履歷海技免狀受有後ノモノナルトキハ海員試験規程第九條ノ規定ニ依リ之ヲ證明スヘシ

第一項ノ體格檢査ニ合格シタル者ハ之ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第三條 遞信省ニ於テ第一條又ハ前條第四項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海員名簿ニ登錄シ第二號書式ノ海技免狀ヲ申請人ニ授與ス

- 一 海技免狀ノ種類
- 二 氏名
- 三 本籍地及族稱
- 四 出生ノ年月日
- 五 海員試験又ハ體格檢査ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
- 六 合格ノ年月日

第四條 前條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ免狀受有者ハ其事實アリタル日又ハ其

事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ變更ニ係ル新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

變更ノ登錄ヲ申請スル者ハ登錄事項ノ變更ヲ證スル戶籍吏ノ書面、外國人ニ在リテハ本國領事ノ書面ヲ申請書ニ添付スヘシ

第五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登錄ヲ爲シ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ免狀受有者ニ交付ス

免狀受有者前項ノ免狀ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第六條 免狀受有者左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

- 一 公權ヲ剝奪セラレタルトキ
- 二 船舶職員法第六條第二號又ハ第三號ノ事項ニ該當シタルトキ
- 三 免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其裁決確定シタルトキ
- 四 海員試験規程ノ規定ニ依リ合格無効トナリタルトキ
- 五 廢業シタルトキ

免狀受有者失踪ノ宣言ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ現ニ海技免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第一項第三號ニ依ル場合ヲ除ク外抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第七條 遞信省ハ左ノ場合ニ於テ抹消ノ登録ヲ爲ス

一 前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ

二 免狀受有者又ハ免狀保管者抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ之ヲ爲ササルトキ

三 免狀受有者詐偽ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

第八條 免狀受有者高等免狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ下等免狀ニ對スル登録ハ當然抹消セラレタル者ト看做ス此場合ニ於テ免狀受有者ハ高等免狀ト引換ニ下等免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第九條 免狀受有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

登録ノ錯誤又ハ遺漏第三條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戶籍吏、外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ添付スヘシ

遞信省ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ免狀受有者ニ通知ス

第十條 前條第二項及第三項ノ規定ハ海技免狀ノ記載ノミニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス

同一ノ事項ニ關シ登録及海技免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アリタルトキハ免狀受有者ハ前條第一項ノ申請ヲ爲スト同時ニ海技免狀ノ訂正ヲ遞信省ニ申請スヘシ

第十一條 遞信省ニ於テ第九條第一項又ハ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登録ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換ヘ免狀受有者ニ交付ス

第十二條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ免狀受有者ハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第十三條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ免狀受有者ニ交付ス

第十四條 行政區劃ノ變更アリタルトキハ免狀受有者ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ海技免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第十五條ノ規定ハ變更ノ登録ニ關スル規定ヲ除ク外前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 左ノ場合ニ於テハ各下ニ定ムル手数料ヲ納付スヘシ

一 第二條第一項ニ依リ體格検査ヲ申請スルトキ 貳拾錢

二 第十條ニ依リ海技免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏免狀受有者ノ過失ニ出テタルトキ 壹圓

三 海技免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ 壹圓

四 前條第一項ニ依リ海技免狀ノ書換ヲ申請スルトキ 壹圓

海技免狀取扱規則

一一八五

第十六條 第一條第二條第一項第四項第四條第一項第十條第十二條又ハ第十四條第一項ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル納付書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第十七條 第四條第一項第六條第一項第九條第一項第十條第十二條又ハ第十四條第一項ニ依リ申請書ヲ遞信省ニ差出スニハ最寄管海官廳ヲ經由スヘシ

第十八條 免狀受有者公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定後遲滯ナク本人又ハ免狀保管者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ海技免狀ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

一 公權停止ノ理由

二 公權停止ノ期間

三 裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル海技免狀ハ公權停止ノ期間内管海官廳之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ免狀受有者ニ還付ス

第十九條 免狀受有者第一條又ハ第二條第四項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタルモノナルトキハ第三條ノ手續ハ審判不繼續ノ決定又ハ確定裁決ヲ受クルマテ、若シ免狀行使ノ停止ヲ言渡サレタル場合ニハ其執行ヲ終ルマテ之ヲ停止ス

前項ノ場合ニ於テ免狀受有者免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其裁決確定シタルトキハ第一條又ハ第二條第四項ノ申請ハ之ヲ却下ス

第二十條 海技免狀ハ本則ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ、本則ノ規定ニ反シテ之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ、第六條第一項各號及第七條第三號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ、滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其效力ヲ失フ

第二十一條 免狀受有者ハ當該官吏又ハ公吏ノ要求アルトキハ海技免狀ヲ其檢閲ニ供スヘシ

第二十二條 第四條第一項第六條第一項第九條第一項第十條第十二條第十八條第一項若ハ第二十一條ニ違背シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第二十三條 本則施行ノ際第四條第一項第六條第一項第二項又ハ第十二條ニ該當シ未タ其手續ヲ爲ササル者ハ本則施行ノ日ヨリ起算シ各條ニ記載スル期間内ニ本則ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ本則施行ノ際第九條第一項第十條又ハ第十八條第一項ニ該當スル者亦同シ
前條ノ罰則ハ前項ニ違背シタル者ニモ亦之ヲ適用ス
(書式略ス)

〔參照〕 二十九年法律第六十八號船舶職員法(前項)

●海員懲戒法(抄)

明治二十九年四月
法律第六十九號

海員懲戒法

第四章 地方海員審判所ノ審判

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 *被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引

致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ依リ拘引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ證明スル

トキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコト

ヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第五章 高等海員審判所ノ審判

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレ

タル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審

判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

●水先法

明治三十三年三月
法律第六十三號

水先法

第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二條 水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス

水先法

- 一 帝國臣民ナルコト
 - 二 主務大臣ノ定ムル試験規定ニ依リ試験ニ合格シタルコト
 - 三 水先人名簿ニ登録セラレタルコト
- 第三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス
- 一 滿二十三年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者
 - 二 剝奪公權者
 - 三 家資分散者及破産者
 - 四 瘋癲白痴者及身體不具又ハ麻弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ナル者
 - 五 水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者
- 第四條 水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス
- 一 公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ
 - 二 水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ
- 第五條 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帯スヘシ
- 水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ
- 第六條 水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乗込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水元旗ヲ掲揚シ夜間

- ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ
- 第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ
- 第八條 水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ
- 二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ
- 二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危難ニ罹リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規程ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ
- 第九條 二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ嚮導セシムヘキカ船長ノ選擇スル所ニ依ル
- 第十條 水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ
- 第十一條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ
- 第十二條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ
- 第十三條 水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又

ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案内料ヲ請求スル機利ヲ有ス

前項但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ機利ヲ有ス

第十五條 水先案内料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 水先人ハ水先修業生一名ニ限り水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條 水先區、水先旗ノ様式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及艤裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス

一 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

二 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四 亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十條 前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條 水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者

二 第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル者

- 四、水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者
- 五、詐偽ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者
- 六、水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者
- 七、水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者
- 八、水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者
- 第二十四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一、第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二、水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者
 - 三、水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者
 - 四、第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ機裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者
 - 五、水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ船舶ニ掲揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者

- 六、水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ機裝シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者
- 第二十五條 船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十六條 水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及第二十三條第八號ノ規定ヲ適用セス
- 第二十七條 此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

附 則

- 第二十八條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ三十二年八月四日ヨリ施行スト定ム)
- 第二十九條 明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第三十條 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ授與シタル水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ此ノ法律ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換ス
- 前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載スル水先區中此ノ法律ニ依リテ定メタル部分ニ限り之ヲ代用スルコトヲ得
- 舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三十一條 此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年第三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スヘシ

第三十二條 第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス

一 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲此ノ法律施行前ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ

二 前號ノ行爲此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ

第三十三條 此ノ法律施行後五年間ヲ限り主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間満了ノ後ト雖モ其ノ效力ヲ失フコトナシ

〔參照〕

三十二年遞信省令第三十三號施行細則(次項)

同年同省令第三十四號水先人試驗規程

二十五年法律第五號海上衝突豫防法

二十九年法律第六十九號海員懲戒法(別掲)

●水先法施行細則

明治三十二年七月
遞信省令第三十三號

水先法施行細則

第一章 登録及免狀

第一條 水先人試驗ニ合格シタル者ハ試驗ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ水先區ノ名稱、本籍地、出生ノ年月日及合格ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ

第二條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登録シ第一號書式ノ

水先免狀ヲ申請人ニ授與ス

一 水先區ノ名稱

二 氏名

三 本籍地

四 出生ノ年月日

五 試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

六 合格ノ年月日

第三條 前條第二號及第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以丙

ニ變更ニ係ル新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

變更ノ登録ヲ申請スル者ハ登録事項ノ變更ヲ證スル戸籍吏ノ書面、外國人ニ在リテハ本國領事ノ書

面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第四條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登録ヲ爲シ水先免狀ヲ書換ヘ之ヲ水先

人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第五條 水先人左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ抹消ノ登録ヲ申請スヘシ

一 日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ

二 滿六十年ニ達シタルトキ

三 水先法第三條第二號乃至第五號ノ事項ニ該當シタルトキ

四 水先人試験規程ノ規定ニ依リ試験無効トナリタルトキ

五 廢業シタルトキ

水先人失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ現ニ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ水先免狀ヲ申請書ニ添附シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ但水先法第三條第五號ノ事項ニ該當シ抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ此限ニアラス

第六條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ抹消ノ登録ヲ爲ス

水先人又ハ水先免狀ヲ保管スル者抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ之ヲ爲ササルトキハ遞信省ハ直ニ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第七條 水先人ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

遞信省ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ水先人ニ通知ス前二項ノ規定ハ水先免狀ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ七日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

水先免狀ノ再交付ヲ申請スル者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ

第九條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先免狀ヲ水先人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ但水先免狀滅失シタル場合ハ此限ニアラス

第十條 第一條第三條又ハ第八條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録税又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼付シ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第十一條 第三條第一項第五條第一項第七條第一項又ハ第八條第一項ニ依リ申請書ヲ遞信省ニ差出スニハ水先人ノ住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第十二條 水先人公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其ノ裁判確定後遲滞ナク本人又ハ水先免狀ノ保管者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ前條ノ管海官廳ニ提出スヘシ

一 公權停止ノ理由

二 公權停止ノ期間

三 裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ公權停止ノ期間内管海官廳之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ水先人ニ還付ス

第二章 水先區

第十三條 水先區ハ左ノ四種トス

- 一 東京灣水先區 安房國洲ノ埼ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ諸磯埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 二 内海水先區 紀伊國田倉埼ヨリ友ヶ島ヲ經テ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國押登埼ヨリ阿波國大磯埼ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地蔵埼ニ引キタル線及長門國網代埼ヨリ筑前國岩屋埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 三 長崎港水先區 肥前國福田埼ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 四 函館港水先區 渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

第三章 水先案内料

第十四條 水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ噸水十二呎又ハ十二呎未滿ノ船舶ニ付キテハ

第一號表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若クハ千噸未滿又ハ噸水一呎若クハ一呎未滿ヲ増ス毎ニ同表ニ定ムル額ニ百分ノ三ヲ加フ

第十五條 前條ニ於テ噸水ト稱スルハ各水先區ニ付キ水先人水路ヲ嚮導スル爲メ船舶ニ乗込ミタルトキヨリ其嚮導終ルマテノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ噸水ヲ謂フ

第十六條 水先人船長ノ便宜ニ依リ第一號表ニ掲グル各航路ノ一部ヲ嚮導シタルトキハ特約アル場合ヲ除ク外其全部ニ對スル水先案内料ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 水先人水路嚮導中海難其他不可抗力ニ依リ第一號表ニ掲グル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ水先案内料ハ嚮導シタル里程ノ割合ニ應スヘキモノトス

第四章 水先旗及水先信號

第十八條 水先旗ハ第一號様式ニ依ル

第十九條 水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ檣頭、旗竿又ハ帆ノ上部其他見易キ所ニ之ヲ掲揚スヘシ

第二十條 水先旗汚染又ハ毀損シテ水先旗タルコトヲ認メ難キニ至リタルトキハ水先人ハ新ニ之ヲ調製スヘシ

第二十一條 水先法第七條ノ水先信號ハ晝間ニ在リテハ第一號若ハ第二號ヲ用ヒ又ハ之ヲ併用シ夜間ニ在リテハ第三號若ハ第四號ヲ用ヒ又ハ之ヲ併用シテ爲スヘシ

- 一 前櫓ニ船首旗又ハ國旗ヲ掲揚スルコト
- 二 萬國普通信號書ニ掲クル水先信號ヲ表示スルコト
- 三 十五分間毎ニ青色焰光ヲ發射スルコト
- 四 須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章 水先船ノ免狀及機裝

第二十二條 水先船ハ左ノ條件ヲ具備スヘシ

- 一 船體ノ外部ハ黒色ト爲スコト
- 二 船側及大帆ノ上部ニ於テ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十三條 水先人水先船ヲ使用スルトキハ水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十四條 水先人水先船免狀ヲ受有セントスルトキハ水先船ノ種類、名稱、綱具ノ裝置、長、幅、深及積量ヲ記載シタル申請書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

水先船水先人ノ所有ニ屬セサルトキハ其所有者ハ前項ノ申請書ニ連署スヘシ

第二十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ水先船ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ第二號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十六條 水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 第八條第一項及第九條ノ規定ハ水先船免狀滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條 第二十四條第二十六條又ハ第二十七條ニ依リ申請書ヲ遞信省ニ差出スニハ水先船ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ

第十條ノ規定ハ前項ノ手数料ヲ納付スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 遞信省ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラスト認ムルトキハ其使用ヲ停止シテ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其修理若クハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其效力ヲ失フ

第三十條 水先船使用スヘカラサルニ至リタルトキ又ハ其使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其事實アリ

タル日七日ヨリ以内ニ事由ヲ具シ第二十八條ノ管海官廳ヲ經由シテ水先船免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第六章 水先法令書

第三十一條 水先法令書ハ遞信省ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十二條 水先法令ニ改正アリタルトキハ遞信省ハ改正ニ係ル條項ノミテ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十三條 水先人改正ニ係ル條項ノミテ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十四條 第八條第一項第九條及第十一條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 水先法令書ハ遞信省ノ印ヲ捺シタルモノニアラサレハ其效ヲ有セス

第七章 水路嚮導ノ證明

第三十六條 水先人水路ノ嚮導ヲ終リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船長ニ提出スヘシ

一 船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水

二 水路ヲ嚮導シタル區域

三 水路ノ嚮導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時

四 水先案内料ノ額

船長ハ前項ノ書面ニ前項ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ若シ文字ヲ削除、訂正又ハ挿入シタルトキハ之ニ認印スヘシ

水先人水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導シタルトキハ各船ノ船長ニ對シ第一項ノ手續ヲ爲シ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其事由ヲ前項ノ書面ニ附記スヘシ

第三十七條 水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業生ヲ伴ヒ乗船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ提出スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第三十八條 水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其修業ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ

第八章 水先人組合

第三十九條 水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス

第四十條 遞信大臣ニ於テ水先人組合ヲ設クヘキコトヲ命シタルトキハ當該水先區ノ水先人三名ニ創立委員ヲ命ス

第四十一條 創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ附スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日及會場ヲ通知スヘシ
組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得

ス

水先人ハ代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

第四十二條 會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス若クハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シタルモノト看做ス

第四十三條 組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滞ナク其成案ヲ遞信大臣ニ差出シ其認可ヲ申請スヘシ

第四十四條 第四十一條ノ場合ニ於テ意見數説ニ分レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ遞信大臣ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十五條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 組合長及組合副長ノ選舉、任期及職務ニ關スルコト
- 三 組合ノ營業ニ關スルコト
- 四 組合ノ風紀秩序ニ關スルコト
- 五 組合ノ會計ニ關スルコト
- 六 組合ノ會議ニ關スルコト
- 七 水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八 其他組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第四十六條 水先人組合ニ組合長組合副長各一名ヲ置ク組合長組合副長ハ組合員ノ選舉ニ依リ上任シ其任期ハ二年以内トス

第四十七條 組合長ハ本則及組合規約ニ依リ其職務ニ屬セシメタル事務ヲ行フ

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ其事故ニ依リ職務ヲ行フ能ハサル場合ニハ之ヲ代理ス

第四十八條 遞信大臣組合規約ヲ認可シタルトキハ其旨ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ組合長組合副長ノ選舉ヲ行ヒ其上任確定シタルトキハ遲滞ナク其氏名ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

創立委員ノ職務ハ前項ノ届出ヲ爲スニ依リテ終了ス

第四十九條 組合長ハ上任後遲滞ナク組合ノ事務所ヲ定ムヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日以内ニ其所在地ヲ遞信省ニ届出ツヘシ事務所ノ所在地ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十條 組合規約ヲ變更セントスルトキハ組合長ハ其成案及變更ヲ要スル事由ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十一條乃至第四十四條ノ規定ハ組合規約ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條 組合長組合副長交迭シタルトキハ新任者ノ氏名及交迭ノ事由ヲ具シ之ヲ遞信大臣ニ届出

ツヘシ

前項ノ届出ハ組合長ノ交迭シタル場合ニ在リテハ新舊組合長ノ連署ヲ以テ之ヲ爲シ組合副長交迭シタル場合ニ在リテハ組合長之ヲ爲スヘシ

第五十二條 組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

第五十三條 第四十九條第二項第五十條第一項第五十一條第一項及第五十二條ノ申請、届出又ハ報告ヲ爲スニハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第五十四條 遞信大臣ハ組合規約ノ改正ヲ命シ水路ノ嚮導ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ必要ト認ムルトキハ其事項ヲ審議スル爲メ組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨視セシムルコトヲ得

第五十五條 水先人第四十五條第三號又ハ第四號ニ依リ組合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フ

水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ組合ノ事務所ヲ管轄スル管海官廳ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十六條 前條第二項ノ申告ヲ爲ス場合ニハ申告者ハ成ルヘク證據及事實參考トナルヘキ事物ヲ提出スヘシ

第九章 雜則

第五十七條 水先人其業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタルトキハ遲滞ナク管海官廳又ハ警察官署ニ其始末ヲ届出ツヘシ

第五十八條 船長ハ其使用シタル水先人水先法第十九條第一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關室日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十九條 水先人業務ヲ開始セントスルトキハ書面ヲ以テ其住所ヲ遞信省ニ届出ツヘシ
水先人其住所ヲ變更シタルトキハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ新住所及變更ノ年月日ヲ記載シタル届書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第十一條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 水先人水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタルトキハ直ニ其狀況ヲ遞信省又ハ管海官廳ニ報告スヘシ

一 航路、標識ニ異變アルコト

二 航路ノ妨害トナルヘキモノノ存在スルコト

三 其他航行上危険ノ虞アル事實アルコト

第六十一條 水先人ハ毎年一月其住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シ前一年間ニ於テ水路ヲ嚮導シタル船舶ニ關シ第三十六條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出スヘシ

前項ノ書面ニハ第三十六條第二項ノ書面ヲ添附スヘシ

第十章 罰則

第六十二條 第三條第四條第二項第五條第七條第一項及第三項第八條第一項第九條第二項第十二條第一項第十九條第二十條第二十六條第二十七條第三十條第三十三條第三十四條第三十六條乃至第三十八條第四十一條第一項第四十三條第四十四條第四十八條第四十九條乃至第五十二條第五十五條第二項第五十七條乃至第五十九條第一項第二項第六十條又ハ第六十一條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第六十三條 本則ハ水先法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 水先法第三十條第一項ニ依リ同法ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換スヘキ舊水先免狀ヲ有スル者ハ同法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ其住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シ舊免狀ノ寫ヲ添ヘ書面ヲ遞信省ニ差出シテ免狀ノ交換ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ記載シ第一號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長第二號乃至第四號ノ事項ニ付テハ戶籍吏、外國人ニ在リテハ第一號乃至第四號ノ事項ニ付キ本國領事ノ證明ヲ受ケタル書面ヲ申請書ニ添付スヘシ

- 一 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セザルコト
- 二 氏名

三 本籍地

四 出生ノ年月日

第六十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ水先人名簿ニ登錄ヲ移シ水先免狀及水先法令書ヲ申請人ニ授與ス

申請人前條ノ免狀ヲ受ケタルトキハ前條ノ管海官廳ヲ經由シ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還シ且其住所ヲ届出ツヘシ

第六十六條 水先法第三十一條ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ適用セス

第六十七條 本則施行前ヨリ引續キ水先人タル者ハ本則施行ノ翌年一月第六十一條ノ手續ヲ爲スト同時ニ其前年ノ初日ヨリ本則施行ノ前日ニ至ル間及本則施行前ヨリ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導シタル船舶ニ關シ第三十六條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ニ同條第二項ノ書面ニ相當スルモノヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第六十二條ノ罰則ハ前項ニ違反シタル者ニモ亦之ヲ適用ス
(書式ハ略ス)

〔参照〕

三十二年法律第六十三號水先法(前項)

●航路標識條例

明治二十一年十月
勅令第六十七號

航路標識條例

第一條 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條 土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船隻其ノ他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

〔參照〕

二十二年遞信省令第二號私設航路標識取締規則
同年同省令第三號北海道廳府縣區町村立航路標識看守條規

●船燈信號器救命具取締規則

明治卅三年十二月
遞信省令第九十二號

船燈信號器救命具取締規則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ船燈ト稱スルハ電氣力ヲ以テ點火スル船燈ヲ除ク外海上衝突豫防法ニ記載スル各種ノ船燈ヲ謂ヒ信號器ト稱スルハ同法ニ記載スル信號器中機械製霧中號角、星火ヲ發スル榴彈、火箭及ヒ船舶検査規程ニ依リ船舶ニ備附クヘキ信號燈管ヲ謂ヒ救命具ト稱スルハ同規程ニ依リ船舶ニ備附クヘキ救命浮器及ヒ救命燈ヲ謂フ

第二條 船舶検査法第十七條第三號ニ掲ケタル外國船舶ヲ除ク外法律命令ニ依リ船燈、信號器、救命具ヲ船舶ニ備附クヘキ者ハ本則ノ規定ニ依リ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命具ヲ使用シ且其ノ試驗成績書ノ寫又ハ檢定明細書ヲ船内ニ保管スヘシ但第四十二條ノ場合ニ於テ外國製船燈、信號器、救命具ノ檢印ヲ受クル迄ハ此ノ限リ在ラス

第三條 船燈、信號器、救命具ノ試驗及ヒ檢定ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 本則ニ於テ免許製造人ト稱スルハ船燈、信號器、救命具ノ製造免許ヲ得タル者又免許販賣人

船燈信號器救命具取締規則

ト稱スルハ外國製船燈、信號器、救命具ノ販賣免許ヲ得タル者ヲ謂フ

第五條 本則ニ於テ船長ト稱スルハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者及ヒ船舶指揮者ヲモ包含ス

第二章 製造及ヒ販賣免許

第六條 船燈、信號器、救命具ヲ製造シ又ハ外國製船燈、信號器、救命具ヲ販賣セントスル者ハ遞信省ノ免許ヲ受クヘシ

第七條 前條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ仕様書、圖面及ヒ標本二箇ヲ添附シ之ヲ差出スヘシ

第八條 免許申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 製造品又ハ販賣品ノ名稱及ヒ種類
- 二 製造所又ハ販賣所ノ位置及ヒ名稱
- 三 申請人ノ住所

仕様書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スヘシ

- 一 製造品又ハ販賣品ノ名稱及ヒ種類
- 二 使用材料ノ品質、尺度及ヒ數量
- 三 構造

圖面ハ左ニ掲グル種別ニ從ヒ之ヲ調製スヘシ

- 一 正面圖

二 横截面圖

三 豎截面圖

第九條 第六條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ標本一種毎ニ左ノ試験手数料ヲ納付スヘシ

一 舷燈 拾 圓

一 檣燈 五 圓

一 碇泊燈、兩色燈、別種船燈信號器及ヒ救命具 參 圓

第十條 第六條ノ申請アリタルトキハ遞信省ハ試験官吏ヲシテ標本ヲ試験セシメ船燈、信號器、救命具、試験檢定規程ニ適合スト認ムルトキハ之ニ檢印ヲ附シ第一號書式ノ免許證書及ヒ第二號書式ノ試験成績書ト共ニ之ヲ申請人ニ交付ス

遞信省ニ於テ前項ノ標本カ船燈、信號器、救命具試験檢定規程ニ適合セスト認ムルトキハ期間ヲ指定シ之レヲ引取ルヘキコトヲ申請人ニ告知ス

前項ノ場合ニ於テ申請人カ指定期間内ニ標本ヲ引取ラサルトキハ遞信省ハ申請人ノ費用ヲ以テ之ヲ還付ス

第十一條 船燈、信號器、救命具ノ製造免許及ヒ外國製船燈、信號器、救命具ノ販賣免許期間ハ十年ヲ以テ限トス

第十二條 申請人免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付免許手数料貳圓ヲ納付スヘシ

第十三條 試験手数料及ヒ免許證書手数料ハ其ノ金額ニ相当スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納付書ニ貼用シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印チナスハ妨ナシ

第十四條 免許製造人又ハ免許販賣人ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル標本ノ一箇ヲ製造所又ハ販賣所ニ保管シ他ノ一箇ヲ製造所又ハ販賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ差出スヘシ

第十五條 前條ノ規定ハ免許製造人又ハ免許販賣人ヲ製造所又ハ販賣所ヲ増設シタル場合ニ之ヲ準用ス但同一管海官廳ノ管内ニ製造所又ハ販賣所ヲ増設シタルトキハ該管海官廳ヘ標本ヲ差出スヲ要セス

前項ニ掲グル標本ノ試験申請ノ手續ニ付テハ第七條乃至第十條ノ規定ヲ準用ス

第十六條 免許製造人又ハ免許販賣人ハ其ノ製造所又ハ販賣所ニ看板ヲ掲グヘシ

第十七條 免許製造人又ハ免許販賣人船燈、信號器、救命具ヲ販賣セントスルトキハ第十條第一項ニ掲グル試験成績書ノ寫チ之ニ添附スヘシ

第十八條 免許製造人又ハ免許販賣人ハ彫刻、貼付又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ品名、種類、製造年月、免許製造人又ハ免許販賣人ノ氏名若ハ名稱及ヒ外國製品ニ在リテハ其ノ製造人ノ氏名若ハ名稱ヲ船燈、信號器、救命具ニ明記スヘシ

第十九條 免許製造人ニ限り製造免許ヲ受ケタル船燈、信號器、救命具ヲ修繕スルコトヲ得

船舶ヲ航行中又ハ前項ノ規定ニ依リ修繕ヲ爲スコトヲ得ル免許製造人ナキ港ニ碇泊中船燈、信號器、救命具ヲ毀損シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ヲ修繕スルコトヲ得

第二十條 免許製造人又ハ免許販賣人ノ住所又ハ氏名ニ變更ヲ生シタルトキハ免許製造人又ハ免許販賣人ハ其ノ事實アリタル日ヨリ十日以内ニ免許證書又ハ試験成績書ノ書換ヲ遞信省ニ申請スヘシ

第二十一條 免許證書又ハ試験成績書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ免許製造人又ハ免許販賣人ハ其ノ事實アリタル日若ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ事由ヲ具シ更ニ免許證書若ハ試験成績書ノ交付ヲ遞信省ニ申請スヘシ

第二十二條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ免許證書又ハ試験成績書ノ書換又ハ交付ヲ受ケルトキハ手数料壹圓ヲ納付スヘシ

第十三條ノ規定ハ前項ニ掲グル手数料納付ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 免許製造人又ハ免許販賣人第二十條又ハ第二十一條ノ申請ニ依リ免許證書又ハ試験成績書ノ交付ヲ受ケルトキハ之ト引換ニ舊免許證書又ハ舊試験成績書ヲ遞信省ニ返還スヘシ但免許證書又ハ試験成績書ヲ滅失シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 免許製造人又ハ免許販賣人左ニ掲グル事項ニ該當スルトキハ本人又ハ現ニ免許證書及ヒ試験成績書ヲ保管スル者ニ於テ其ノ事實アリタル日若ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ事由

ヲ具シ免許證書及ヒ試験成績書ヲ遞信省ニ返還スヘシ

一 免許期間満了ノトキ

二 廢業シタルトキ又ハ組合若ハ會社方解散シタルトキ

三 免許ヲ取消サレタルトキ

前項ノ場合ニ於テ管海官廳ハ第十條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用シテ其ノ標本ヲ還付ス

第二十五條 免許證書又ハ試験成績書ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ爲ササルトキハ遞信省ハ其ノ無効ナル

コトヲ官報ニ公告ス

第二十六條 免許製造人又ハ免許販賣人其ノ製造所又ハ販賣所ヲ移轉又ハ増減シタルトキハ其ノ事實

アリタル日ヨリ十日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

一 移轉又ハ増減シタル製造所若ハ販賣所ノ位置及ヒ名稱

二 増設シタル製造所又ハ販賣所ニ於ケル製造品若ハ販賣品ノ名稱及ヒ種類

第二十七條 免許製造人又ハ免許販賣人ハ其ノ製造所又ハ販賣所毎ニ第三號書式ニ依リ毎年一月前一年間ニ製造、修繕又ハ販賣シタル船燈、信號器、救命具ノ統計表ヲ調製シ遞信省ニ差出スヘシ

第二十八條 第二十條、第二十六條若ハ第二十七條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ免許證書若ハ試験成績書ヲ返還スルニハ其ノ製造所又ハ販賣所ノ所在地ヲ管轄スル管

海官廳ヲ經由スヘシ

第二十九條 免許製造人又ハ免許販賣人カ死亡又ハ隠居シタルトキハ其ノ相續者ニ限り製造又ハ販賣

ヲ繼續スルコトヲ得

第三十條 免許製造人又ハ免許販賣人本則ノ規定ニ違背シタルトキハ遞信省ハ其免許ヲ取消スコトアルヘシ

第三章 請賣認可

第三十一條 免許製造人又ハ免許販賣人ヨリ船燈、信號器、救命具ヲ請賣セントスル者ハ遞信省ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 前條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ署名捺印シタル申請書ヲ差出スヘシ

一 請賣品ノ名稱及ヒ種類

二 免許製造人又ハ免許販賣人ノ住所、氏名若ハ名稱

三 請賣所ノ位置並請賣人ノ住所

第三十三條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ第四號書式ノ認可證書ヲ申請人ニ交付ス

第三十四條 申請人認可證書ノ交付ヲ受クルトキハ認可證書手数料壹圓ヲ納付スヘシ

第十三條ノ規定ハ前項ニ掲グル手数料納付ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 第十六條及ヒ第十七條ノ規定ハ請賣人ニ之ヲ準用ス

第三十六條 第二十條乃至第二十五條ノ規定ハ認可證書ニ之ヲ準用ス

第三十七條 第二十六條ノ規定ハ請賣所ヲ移轉又ハ増減シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 請賣人ハ第五號書式ニ依リ毎年一月前一年間ニ請賣シタル船燈、信號器、救命具ノ統計表ヲ調製シ遞信省ニ差出スヘシ

第三十九條 請賣人カ第三十六條、第三十七條若ハ第三十八條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出チナシ又ハ

第三十六條ノ規定ニ依リ認可證書ヲ返還スル場合ニハ管轄管海官廳ヲ經由スヘシ

第四十條 第二十九條ノ規定ハ請賣人カ死亡又ハ隠居シタルトキ又第三十條ノ規定ハ請賣人カ本則ノ規定ニ違背シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四章 檢定及ヒ監査

第四十一條 免許製造人又ハ免許販賣人船燈、信號器、救命具ヲ販賣セントスルトキハ其ノ製造所又ハ販賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出シ檢定ヲ申請スヘシ

第四十二條 日本ノ港ニ於テ船舶ト共ニ檢印ヲ附セサル外國製船燈、信號器、救命具ヲ取得シタルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船長ニ於テ其ノ港ヲ管轄スル管海官廳若シ其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ差出シ檢定ヲ申請スヘシ

外國ノ港ニ於テ船舶ト共ニ檢印ヲ附セサル外國製船燈、信號器、救命具ヲ取得シタルトキハ船舶カ目的地ニ到著シタルトキ船舶所有者、船舶管理人又ハ船長ニ於テ直チニ其ノ港ヲ管轄スル管海官廳

若シ其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十三條 船舶檢査法第十七條第一號又ハ第二號ニ掲ケタル船舶カ檢印ヲ附セサル船燈、信號器、

救命具ヲ使用スルトキハ船長ハ該船舶ノ檢査ヲ受クルトキ檢査ヲ執行スル管海官廳ニ之ヲ差出シ檢定ヲ申請スヘシ

第四十四條 免許製造人船燈、信號器、救命具ヲ修繕シタルトキハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出シ檢定ヲ申請スヘシ

第十九條第二項ノ規定ニ依リ船燈、信號器、救命具ニ修繕ヲ加ヘタルトキハ船長ハ修繕後最初ニ到著シタル港又ハ碇泊港ノ管海官廳若シ其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ差出シ檢定ヲ申請スヘシ

第四十五條 第四十一條ノ規定ニ依リ檢定ヲ申請スルトキハ申請書ニ試験成績書ヲ添附シ製造品又ハ販賣品ト共ニ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一 船燈、信號器、救命具ノ品名、種類及ヒ箇數

二 製造ノ年月

三 製造所又ハ販賣所ノ位置及ヒ名稱

第四十六條 第四十二條ノ規定ニ依リ檢定ヲ申請スルトキハ申請書ニ取得品ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差

出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 取得品ノ名稱種類及ヒ箇數
- 二 製造ノ年月
- 三 取得品製造者ノ住所及ヒ氏名
- 四 船舶ノ名稱、船籍港、總噸數及ヒ船舶所有者、又ハ船舶管理人ノ氏名
- 五 取得地名

前二項ノ規定ハ第四十三條ノ規定ニ依リ檢定ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 前條ノ場合ニ於テハ左ノ檢定手数料ヲ納付スヘシ

- 一 舷燈及ヒ櫓燈 每一箇 貳 圓
- 一 碇泊燈、兩色燈、別種船燈 每一箇 壹 圓
- 一 機械製霧中號角 每一箇 壹 圓
- 一 星火ヲ發スル榴彈、火箭、信號焰管及ヒ救命具 每一箇 拾 錢

第十三條ノ規定ハ前項ニ掲グル手数料納付ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十四條ノ規定ニ依リ檢印ヲ申請スルトキハ申請書ニ試驗成績書ノ寫、檢定明細書及ヒ修繕品ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 修繕品ノ名稱、種類、番號及ヒ箇數
- 二 修繕ノ年月
- 三 修繕ノ箇所

第四十九條 第四十一條乃至第四十四條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢定官吏ヲシテ船燈、信號器、救命具ヲ検査セシメ船燈、信號器、救命具、試驗檢定規程ニ適合スト認ムルトキハ之ニ檢印ヲ附シ申請人ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テ管海官廳カ修繕ヲ加ヘタル船燈、信號器、救命具カ船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合セスト認ムルトキハ檢印ヲ取消シ之ヲ申請人ニ交付ス

第四十二條及ヒ第四十三條ニ掲グル船燈、信號器、救命具ニ檢印ヲ附シタル場合ニハ檢定官吏ハ第六號書式ノ檢定明細書ヲ申請人ニ交付ス

第五十條 檢定官吏檢定ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ檢定ヲ申請シタル船燈、信號器、救命具ノ試験ヲ行フコトヲ得

第五十一條 第二十條乃至第二十三條及ヒ第二十五條ノ規定ハ檢定明細書ニ之ヲ準用ス
第五十二條 第四十二條又ハ第四十三條ニ掲グル船燈、信號器、救命具ニシテ檢印ヲ附セラレタルモノカ左ニ掲グル事項ニ該當シタルトキハ船長ハ其ノ事實アリタル日ヨリ十日以内ニ事由ヲ具シ檢定

明細書ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

- 一 滅失シタルトキ
- 二 使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 三 檢印ヲ取消サレタルトキ

第五十三條 遞信省ハ船燈、信號器、救命具ノ製造所販賣所請賣所又ハ船舶ニ臨時監査官吏ヲ派出シテ船燈、信號器、救命具ノ監査ヲ行ハシム

監査官吏船燈、信號器、救命具ヲ監査シ試驗成績書又ハ檢定明細書ニ適合セスト認ムルトキハ其ノ檢印ヲ取消スヘシ

第五章 罰則

第五十四條 左ノ場合ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二條ノ規定ニ反シテ檢印ヲ附セサル船燈、信號器、救命具ヲ使用シ又ハ試驗成績書ノ寫若ハ檢定明細書ヲ船内ニ保管セサルトキ
- 二 第六條ノ規定ニ反シテ免許ヲ受ケスシテ船燈、信號器、救命具ヲ製造シ又ハ外國製船燈、信號器、救命具ヲ販賣シタルトキ
- 三 第十四條ノ規定ニ反シテ標本ヲ製造所又ハ販賣所ニ保管セス又ハ之ヲ管轄管海官廳ヘ差出ササルトキ

四 製造所又ハ販賣所ヲ増設シタル場合ニ於テ第十五條ノ規定ニ反シテ更ニ製造品若ハ販賣品ノ標本ヲ備ヘサルトキ又ハ製造品若ハ販賣品ノ標本ヲ管轄管海官廳ヘ差出ササルトキ

五 第十六條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シテ製造所販賣所又ハ請賣所ニ看板ヲ掲ケサルトキ

六 第十七條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シテ試驗成績書ノ寫ヲ添附セスシテ船燈、信號器、救命具ヲ販賣若ハ請賣シタルトキ

七 第十七條又ハ第三十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ試驗成績書寫ヲ製造品、販賣品又ハ請賣品ニ添附シタルトキ

八 第十九條第二項ノ場合ヲ除ク外免許製造人ニアラスシテ船燈、信號器、救命具ノ要部ヲ修繕シタルトキ又ハ免許製造人ニシテ製造免許ヲ受ケサル船燈、信號器、救命具ヲ修繕シタルトキ

九 第二十條乃至第二十四條、第三十六條、第五十一條又ハ第五十二條ノ規定ニ反シテ免許證書、試驗成績書認可證書又ハ檢定明細書ノ書換若ハ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還スヘキ義務ヲ怠リタルトキ

十 第二十六條又ハ第三十七條ノ規定ニ反シテ製造所、販賣所又ハ請賣所ヲ移轉若ハ増減ノ届出ヲ怠リタルトキ

十一 第二十七條又ハ第三十八條ノ規定ニ反シテ統計表ヲ遞信省ヘ差出ササルトキ

十二 第三十一條ノ規定ニ反シテ認可ヲ受ケスシテ船燈、信號器、救命具ヲ請賣シタルトキ

十三、第四十一條乃至第四十四條ノ規定ニ反シ檢定ヲ受ケスシテ船燈、信號器、救命具ヲ販賣シ又ハ之ヲ使用シタルトキ、

第五十五條 本章ノ規定中船船所有者、船舶管理人、免許製造人、免許販賣人又ハ請賣人ニ適用スヘキモノハ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ其ノ者ノ罪ヲ論スヘカラサル場合ニ在リテハ其ハ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者又ハ清算人ニ之ヲ適用ス

附則

第五十七條 明治二十八年^四遞信省令第四號船燈、信號器及救命具取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第五十八條 本則施行前製造又ハ購入シタル船燈、信號器、救命具ニシテ明治二十八年^四遞信省令第四號船燈、信號器及救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ附セサルモノハ本則施行後二箇月間ニ限り同則ニ依リ檢定ヲ受グルコトヲ得

第五十九條 本則施行前明治二十八年^四遞信省令第四號船燈、信號器及救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命具及ヒ前條ノ規定ニ依リ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命具ハ本則施行後二箇年間ニ限り之ヲ販賣、請賣若ハ使用スルコトヲ得

前項ニ掲グル船燈、信號器、救命具ハ本則施行後二箇年以内ニ檢定ヲ申請シ船燈、信號器、救命具

試驗檢定規程ニ適合スト認メラレタルトキハ該期間經過後ト雖モ之ヲ販賣、請賣若ハ使用スルコトヲ得

第六十條 前條ノ規定ニ依リ船燈、信號器、救命具ヲ販賣又ハ請賣スル場合ニ於テハ本則ノ規定ヲ適用セス此場合ニ於テハ明治二十八年^四遞信省令第四號船燈、信號器及救命具取締規則ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ニ依リ船燈、信號器、救命具ヲ使用スル場合ニ於テハ本則第二條ノ規定中試驗成績書又ハ檢定明細書ニ關スル規定ヲ適用セス

第六十一條 第四十五條ノ規定ハ第五十八條及ヒ第五十九條第二項ノ規定ニ依リ檢定ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

(書式ハ略ス)

[參照]

三十三年遞信省令第九十三號檢定規程

航海獎勵法

明治二十九年三月
法律第十五號

航海獎勵法

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミテ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登録シタル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ於テ貨物旅客ノ運搬ヲ營業トスル

者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケヘキ船舶ハ總噸數一千噸以上ニシテ一時間十海里以上ノ最
強速力ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル鐵製又ハ鋼製汽船ニ限ル

第三條 航海獎勵金ヲ受ケントスル船舶ノ所有者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第四條 左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得ス

第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登録ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶

第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第三 帝國政府ノ命令ニ依レル航路ニ使用スル船舶

第五條 航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里ノ最強速力ヲ有スル船舶ニ對シ總噸數一噸航

海里數一千海里ニ付二十五錢ヲ支給シ總噸數五百噸ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ十、最強速力一時間一海

里ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ二十ヲ増給ス但シ總噸數六千五百噸以上又ハ最強速力一時間十八海里以上

ノ船舶ニ對シテハ總噸數六千噸又ハ最強速力一時間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ支給ス

航海獎勵金ハ製造後五箇年ヲ經過セサル船舶ニ對シテハ全額ヲ支給シ五箇年ヲ經過シタル船舶ニ對

シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

航海獎勵金ヲ算定スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セス

明治三十二年十月一日以後帝國船籍ニ登録スル外國製造ノ船舶ニハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ

航海獎勵金ノ半額ヲ支給ス(三十二年法律第九十六號ヲ以テ本項追加)

第六條 航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定ス

帝國各港ヘ寄港シ外國ヘ發航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外國ヨリ發航シ帝國各港

ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其ノ航海里數ヲ算定ス

航海里數ヲ證明スルニハ寄港地方官廳ノ寄港證明ヲ以テスヘシ

第七條 遞信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認可ヲ受ケタル船舶ヲ公用ノ爲ニ使用

スルコトヲ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ

出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セス

第八條 第三條ノ認可ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用

ヲ以テ航海修業生ヲ該船舶ニ乗組マシメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給スヘシ

總噸數一千條以上二千五百噸未滿 二 人

總噸數二千五百噸以上四千噸未滿 三 人

總噸數四千噸以上 四 人

第九條 第三條ノ認可ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本

支店ノ事務員若ハ該船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス但シ外國ニ於テ死亡其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ經テ之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ遞信大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物小包郵便物郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ遞送スヘシ

第十一條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ航海獎勵金ヲ受ケ航海スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡貸渡交換贈與質入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 遞信大臣ハ此ノ法律ニ依リ船舶所有者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代人若ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サルトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十四條 此ノ法律ニ依リ遞信大臣ノ發スル命令又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セシメ第十一條ノ規定ニ違背シタル者ハ其ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還セシム

第十七條 船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ遞信大臣ハ航海獎勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得第十二條ノ場合ニ於テ其ノ代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十八條 前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲グル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十八箇年間之ヲ施行ス(三十二年法律第九十六號ヲ以テ改正)

〔參照〕

二十九年遞信省令第十五號施行細則
三十一年同省令第二十號航海獎勵法ニ據リ保護ヲ受ケル船舶郵便物遞送規則

開港港則

明治三十一年七月
勅令第三百三十九號

開港港則

開港港則

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

横濱ノ港界ハ十二天(マンダリン、アラフ)ヨリ燈船マテ夫ヨリ正北ニ向ヒ鶴見川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ合マル

神戸ノ港界ハ脇ノ濱ノ東角ヨリ正南ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ北東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内(三十三年勅令第二百五十二號ヲ以テ改正)

新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシニ海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内ニ合マル

夷港ノ港界ハ稚泊村ヨリ北五十里村外堺マテ引キタル一線ト加茂湖東岸港町ヨリ同湖北西岸加茂村マテ引キタル一線トノ内ニ合マル

大阪ノ港界ハ武庫川口目標(ツリ、ポイント)ヨリ南微西ニ向ヒ引キタル一線ト大和川口ヨリ引キタル一線ト武庫川口目標(ツリ、ポイント)ヨリ六海哩大和川口ヨリ五海哩ノ所ニ於テ相接スル其二線内ニ合スル

長崎ノ港界ハ小瀬戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ長刀岩マテ夫ヨリ微東南ニ引キタル線以内(同上)

函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海哩ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ合マル

清水ノ港界ハ眞崎ヨリ正北ニ引キタル一線以内(三十二年勅令第三百六十號ヲ以テ本項以下追加)

武豊ノ港界ハ布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以内

四日市ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

絲崎ノ港界ハ絲崎ヨリカイノ山ノ山嶺ニ引キタル一線以内(三十三年勅令第二百五十二號ヲ以テ追加)

下ノ関ノ港界ハ彦島弟子待ノ鼻ヨリ岩流島ノ南東端マテ夫ヨリ北東微北ニ向ヒ引キタル一線内彦島海士浦ノ鼻ヨリ北東ニ引キタル一線以内

門司ノ港界ハ白木崎ヨリ北西四鏈ノ所ヨリ門司崎ニ引キタル一線ト正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

博多ノ港界ハ殘島ノ北端ヨリ滿切ニ引キタル一線及小戸鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内

唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ正東及正南ニ引キタル二線以内

口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間崎ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

三角ノ港界ハ瀬戸ノ鼻ヨリ大矢野島、コンビラ鼻マテ際崎ノ鼻ヨリ戸馳島野崎マテ同島尾鼻ヨリ千東島六四郎鼻マテ夫ヨリ大矢野島塔ヶ崎マテ引キタル四線以内

嚴原ノ港界ハ虎崎ヨリ耶冥崎(一名寢釋迦鼻)ニ引キタル一線以内

佐須奈ノ港界ハ立場崎ヨリ「トログ」崎ニ引キタル一線以内

鹿見ノ港界ハ長崎島ヨリ塔崎ニ引キタル一線以內
那覇ノ港界ハ先原崎ヨリ千ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ千ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線以內

濱田ノ港界ハ黒崎ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端(千疊敷鼻)ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以內(二十三年勅令第二百五十二號ヲ以テ改正)

境ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内及外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置崎ニ引キタル一線以內

敦賀ノ港界ハ赤崎ヨリ輕子崎ニ引キタル一線以內

七尾(南灣)ノ港界ハ能登島松ヶ崎ヨリ以東ニ引キタル一線以西及屏風崎峽以東

伏木ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリ「カヤシバ」岬ニ引キタル一線以內

釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

室蘭ノ港界ハ「エンルム」崎ヨリ大黒島ヲ經テ「ホテイシ」崎ニ引キタル一線以內

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ掲グヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ届出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スコトヲ得ス
著港届ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但シ著港届ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ税關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第四條 港長ノ端碇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條 港長ハ其職務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端碇ニハ別紙雜形ノ如キ旗ヲ掲グヘシ
港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮カ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ得

第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障礙スヘカラス
「デブ、ブームス」ヲ接キ出シタル船舶ニシテ其「デブ、ブームス」カ航海ノ自由ヲ障礙スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ

第七條 港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日没ト日出ノ間ニハ海上衝突ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲グヘシ

第八條 暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ掲ケタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第九條 常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃焼スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没ノ間ニハBノ信號日没ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前櫓ノ頂上ニ掲グヘシ

右船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス

第十條 休繋中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」、倉庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スヘシ

第十一條 船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日没ノ間ニハNMノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ斷ニス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日没ノ間ニハGノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病(虎烈刺、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類)アル地ト布告シタル地ヨリ來着シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日没ノ間ニ

ハ黃旗ヲ日没ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネ前櫓ノ頂上ニ掲グヘシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

衛生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄りタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマテ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スヘカラス且ツ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來着シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ牛羊等又ハ其死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サス

第十三條 港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラス

石炭、荷足、其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ防ク爲メ必要ノ豫防ヲ爲スヘシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ

之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條 船舶出港セントスルトキハ其旨港務局ニ届出テ且ツ出帆旗ヲ引揚グヘシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ届出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條 一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ雜破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指

定セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵守セサルニ

於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壊セシムルコトヲ得

第十六條 港務局ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ

使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏡、綱其他ノ船具ヲ繫クヘカラス

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乗掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再

設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二百圓以上、二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ満足ス

ヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問

ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條 各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クヘシ

第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第

十三條第一項及第二項ノ規定ニ限ル

第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

(旗章雜形ハ略ス)

〔参照〕

三十一年通信省令第十六號施行細則
二十五年法律第五號海上衝突豫防法

第二章 通信

郵便法

明治三十三年三月
法律第五十四號

郵便法

第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス

郵便法

運送業者及其ノ使用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添状又ハ送状ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス

第四條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用馬車等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ増設又ハ欄柵ナキ宅地畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等ニ對シテハ渡津運河道路橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第七條 郵便専用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

郵便専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

第八條 郵便官署ハ郵便物ノ遞送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限リ其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條 郵便物検査ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直ニ検査ヲ受ケ

第十條 郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十一條 郵便官署ハ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ノ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十三條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り差出人ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條 宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノ及郵便ニ依ル取立金ニシテ拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス

郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ公示ノ日ヨリ六箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但シ賣却ニ要スル経費ハ直ニ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

有價物賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二箇年間交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ノ所

有二歸ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムル
トキハ差出人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人其ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條 通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ

第一種 書 狀 重量四匁又ハ其ノ端數毎ニ 金參 錢

第二種 郵便葉書 重量四匁又ハ其ノ端數毎ニ 金壹錢五厘
一 通 常 葉 書
二 往 復 葉 書
三 封 緘 葉 書

第三種 每月一回以上刊行スル 定期刊行物 一 號一箇重量二十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金五 厘
二 二號又ハ二箇以上一束重量二十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金壹 錢

第四種 書籍印刷物業務用書類 重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金貳 錢
寫眞書畫圖商品見本及
雛形博物學上ノ標本

第五種 農產物種子 重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金壹 錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

異種ノ郵便物ヲ合装シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但

シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合装スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便葉書ノ表面又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ

取扱ヲ爲ス

第十九條 小包郵便物ノ料金並郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十條 書狀ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合装スルコトヲ得ス但シ無封ノ添狀又ハ送狀ハ

此ノ限ニ在ラス

第二十一條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條 郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積重量包裝等ニ關スル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第二十五條 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額二倍

ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徵
收ス

第二十六條 郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサル

ニ因リテ消滅ス

第二十七條 郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十八條 郵便郵便爲替郵便電信電話ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得

第二十九條 郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ以テ納付スヘシ

第三十條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ政府之ヲ發行ス

第三十一條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ノ汚損毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ失フ

第三十二條 成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限り其ノ損害ヲ賠償ス

一 書留郵便物ヲ亡失シタルトキ

二 小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

三 郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ効力ヲ失ハシメタルトキ

賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條 郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキトキハ損害ナキモノト看做ス

第三十五條 第三十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ在ラス

一 差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ

二 不可抗力ニ因リタルトキ

三 其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因リタルトキ

第三十六條 郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ムルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十七條 第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人之ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ對シ左ノ期間

内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間

二 第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年

第三十九條 郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條 郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者

ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ賠償金ノ全部又

ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二月以上二年以下ハ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ハ罰金ヲ

附加ス

前項ノ場合ニ於テ收得シタル金錢物品ハ之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡シタルモノハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第四十二條 第三條ニ違反シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ
本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條 第二十條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

第四十七條 不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金を免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第四十八條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金を表彰スヘキ證票ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金を表彰スヘキ證票ハ之ヲ沒收ス

第四十九條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金を表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 郵便事務ニ従事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ニ使用シタル郵便切手其ノ他郵便料金を表彰スヘキ證票ヲ剝脱切取シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第五十一條 郵便事務ニ従事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披毀損隱匿若ハ拋棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第五十三條 正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絕シ若ハ其ノ送達ヲ遲延セシメタル者又ハ重大ナ

ル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便専用ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ヲ破壊損傷シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十五條 第四十七條ヲ除クハ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條 郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第五十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例中第十二章及第二百四十二條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合國郵便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス

第五十八條 本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵便法ヲ適用ス

〔參照〕

- 三十三年法律第五十五號郵便爲替法
- 同年法律第五十六號鐵道船舶郵便法(次項)
- 同年逓信省令第四十二號郵便規則
- 同年逓信省令第四十四號鐵道船舶郵便規則(別稱)
- 同年同省令第四十五號郵便爲替規則
- 同年同省令第五十五號外國郵便規則

- 同年同省令第五十六號清韓小包郵便規則
- 同年同省令第五十七號外國郵便爲替規則
- 同年同省令第七十三號第三種郵便物認可規則
- 同年同省令第七十五號郵便切手類發下規則(別稱)

鐵道船舶郵便法

明治三十三年三月 法律第五十六號

鐵道船舶郵便法

第一條 本法ニ於テ鐵道運送業者ト稱スルハ私設鐵道條例ニ依リ鐵道ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂ヒ船舶運送業者ト稱スルハ商法ニ依リ船舶ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 鐵道運送業者ハ郵便取扱ノ爲郵便官署ノ要求アルトキハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ供シ又ハ建物ノ建築若ハ改築ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第三條 鐵道運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ定期列車毎ニ郵便車トシテ列車定數ノ總容積ノ五分ノ一迄ハ其ノ列車ノ一部ヲ供給シ又ハ郵便官署ノ交付ニ係ル同一容積内ノ郵便車ヲ聯結スヘシ

船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ船舶ニ相當ノ郵便船室ヲ供給スヘシ

第四條 郵便車ノ構造ハ通常客車ト同一タルコトヲ要ス

第五條 郵便車又ハ郵便船室ニハ郵便物郵便取扱員及其ノ監視員ノ外搭載スルコトヲ得ス

鐵道船舶郵便法

第六條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求ニ應シ郵便車又ハ郵便船室ニ郵便物ノ取扱ニ必要ナル設備及維持ヲ爲スヘシ

鐵道運送業者ハ郵便官署ノ交付ニ係ル郵便車ヲ保管スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ設備維持及保管ニ要スル費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第七條 鐵道運送業者ハ列車仕立驛ニ於テ指定ノ郵便車ノ外臨時容積ノ増加ヲ要シ又ハ臨時郵便車ノ

聯結ヲ要スル爲其ノ列車出發時刻三十分前迄ニ郵便官署ノ要求アルトキハ他ノ郵便車ヲ聯結シ又ハ

通常客車ヲ其ノ代用ニ供スヘシ

第八條 鐵道運送業者ハ郵便官署ニ於テ郵便車ニ依ラサル郵便物ノ運送ヲ要求シタルトキハ旅客列車

ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ運送スヘシ

第九條 鐵道運送業者列車ノ發着時刻ヲ變更スルトキハ七日以前ニ之ヲ郵便官署ニ報告スヘシ但シ天

災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲發着時刻ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第十條 郵便車ノ使用料金ハ左ノ割合ニ依ル

三百立方尺迄	一哩毎ニ	金壹錢八厘以内
五百立方尺迄	一哩毎ニ	金參錢五厘以内
七百立方尺迄	一哩毎ニ	金五錢六厘以内
千立方尺迄	一哩毎ニ	金九錢以内

千立方尺ヲ超過シタルトキハ其ノ全容積ニ對シ百立方尺迄ニ付一哩毎ニ金一錢以内

郵便車ノ容積ハ各列車ニ於ケル郵便車總容積ヲ以テ之ヲ合算ス其ノ容積ノ算定方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

郵便物ヲ旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ運送セシムルトキハ其ノ運送料金ハ其ノ鐵道運送業者ノ定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以内トス

郵便官署ヨリ郵便車ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道運送業者ニ支給スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ目的地ニ於テ他ノ貨物ニ先チ陸揚スヘシ天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若ハ陸揚スルトキ亦同シ

第十二條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 郵便物搭載列車天災事變ノ爲其ノ進行ヲ停止シタルトキ又ハ郵便物搭載船舶航行中天災事變ニ因リ郵便物ヲ陸揚シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便取扱員ノ在ラサル場合ニ

限リ直ニ該郵便物ヲ附近郵便官署ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十四條 第三條ノ要求ニ應セサル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第二條若ハ第七條ノ要求ニ應セサル者ハ十五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應セサル者

ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス第五條ニ違反シタル鐵道運送業者及船舶運送業者亦同シ

第十六條 第十三條ニ依ル送達ヲ爲ササル者ハ十圓以上百圓以上ノ罰金ニ處ス

第十七條 過失ニ依リ運送中ニ係ル郵便物ヲ亡失シ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶

運送業者ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰

則チ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ハ代表者ニ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納

完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以

テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ効力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二十條 軌道條例ニ依リ運送營業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スル

コトヲ得

第二十一條 鐵道又ハ航路若ハ船舶ニ關シ政府ヨリ補助ヲ受ケ若ハ受ケタル鐵道運送業者又ハ船舶運

送業者ニ對シ特別ノ命令アルトキハ其ノ命令ニ依ル

附則

本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

三十三年遞信省令第四十四號鐵道船舶郵便規則(次項)

鐵道船舶郵便規則

明治三十三年九月
遞信省令第四十四號

鐵道船舶郵便規則

第一條 鐵道船舶郵便法ニ依リ運送スヘキ郵便物ニハ現ニ郵便用運送ノ用ニ供スル必要物件ヲ包含ス

第二條 運送業者ノ郵便物運送及授受ニ關スル取扱方法並運送業者ニ交付スヘキ物額ノ仕拂方法ハ郵

便官署ノ指定スル所ニ依ル

第三條 郵便物ヲ運送スヘキ區域度數時刻列車並郵便車室又ハ郵便船室ノ容積及ヒ郵便物ノ受渡局ハ

郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第四條 鐵道船舶郵便法第五條ニ依リ郵便車室又ハ郵便船室ニ搭乘スヘキ事務員ハ制服ヲ著シ又ハ搭

乗證ヲ携帯スル者ニ限ル

第五條 鐵道船舶郵便法第六條ニ依リ郵便官署ノ要求ニ應シ必要ナル設備及維持ヲ爲サントスルトキ

ハ運送業者ハ豫メ工事仕様書並經費豫算書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 郵便物ヲ運送スル船舶ニシテ發著日時ヲ定メタルモノ其ノ日時ヲ變更スルトキハ船舶運送業者ハ五日以前ニ之ヲ當該郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲メ發著日時ノ變更ヲ決定シタルキハ直ニ報告スヘシ

第七條 一列車若ハ一船舶ニ於ケル郵便車室又ハ郵便船室ハ郵便官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ二箇所以上ニ分離スルコトヲ得ス

第八條 郵便車室及郵便船室ノ位置ハ特ニ郵便官署ノ指定ナキモノト雖モ常ニ之ヲ一定スヘシ但シ正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 郵便車室及郵便船室ノ容積ハ各其ノ區劃障壁ノ内容積ヲ謂フ
郵便車室ノ容積ハ室内最低ノ高サニ依テ算定ス

第十條 郵便官署ヨリ郵便車室ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道船舶郵便法第六條及第十條ニ依リ鐵道運送業者ニ交付スヘキ金額ハ同法第十條第一項ニ掲グル各容積ニ應スル最高料金ノ五分ノ四以內トス

第十一條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ左ノ割合ニ依ル

百立方尺マテ	一哩毎ニ	金貳錢五厘以內
二百立方尺マテ	一哩毎ニ	金參錢五厘以內
三百立方尺マテ	一哩毎ニ	金四錢五厘以內
四百立方尺マテ	一哩毎ニ	金五錢八厘以內

五百立方尺マテ 一哩毎ニ 金七錢壹厘以內

六百立方尺マテ 一哩毎ニ 金八錢五厘以內

七百立方尺マテ 一哩毎ニ 金拾錢以內

八百立方尺マテ 一哩毎ニ 金拾壹錢六厘以內

九百立方尺マテ 一哩毎ニ 金拾參錢參厘以內

千立方尺マテ 一哩毎ニ 金拾五錢壹厘以內

千立方尺ヲ超過シタル場合ニハ其全容積ニ對シ百立方尺マテニ付一哩毎ニ金一錢五厘以內

第十二條 郵便官署ニ於テ特別ノ條件ヲ附シタルトキハ前條ノ料金率ヲ增加スルコトアルヘシ

第十三條 第十一條ノ運送料金ハ鐵道船舶郵便法第十三條ノ場合ノ外船舶運送業者ニ於テ郵便官署ト船舶間ニ郵便物ヲ運送スル場合ノ費用ヲモ包含ス若陸上ノ遞送距離一里ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ陸路遞送ノ實費ヲ支給ス

第十四條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便物ヲ搭載シタル鐵道列車又ハ船舶ニシテ天災事變ニ遭遇スルトキハ郵便官署又ハ郵便事務員ノ要求ニ依リ列車又ハ船舶ニ郵便物ヲ搭載ノ儘保管シ又ハ他ノ貨物ニ先キ其ノ指定ノ地ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十五條 第二條及第三條ニ依ル郵便官署ノ指定ニ違背シタル者第六條第七條ニ違背シタル者及正當ノ事由ナクシテ第八條及第十四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔參照〕

三十三年法律第五十六號鐵道船舶郵便法(前項)

●郵便切手類賣下規則

明治三十三年九月
逓信省令第七十五號

郵便切手類賣下規則

第一條 此ノ規則ニ於テ郵便切手類ト稱スルハ政府ニ於テ發行スル郵便切手郵便封皮郵便葉書郵便切手貯金書帳ヲ謂フ(二十四年逓信省令第九號ヲ以テ改正)

第二條 郵便切手類ハ郵便電信及電話局所ニ於テ之ヲ賣下ク但シ郵便及電信局所内又ハ電話交換局内ニ設置ノ電話所及官應用電信電話又ハ私設ノ電信電話ニ依ル公衆通信取扱所ニ於テハ此ノ限ニアラス

前項ノ外必要ナル場所ニ郵便切手賣下所ヲ置キ郵便切手類ノ賣下ヲ爲サシム

第三條 郵便切手類ハ前條ニ定メタル場所ノ外ニ於テ賣下クルコトヲ得ス

第四條 郵便切手類ハ定價ヲ以テ賣下クヘシ

第五條 郵便切手類ノ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ闕クヘキ處アルモノハ賣下クルコトヲ得ス

第六條 郵便切手類ノ賣下時限ハ郵便及電信局所ニ於テハ郵便又ハ電報受附時限ニ依リ電話局所ニ於テハ電話所ノ電話通信時間ニ依ル但シ時間ヲ定メス受付ヲ爲スヘキ郵便又ハ電報ヲ差出ストキハ本

項ノ時限ニ拘ラス之ニ要スル郵便切手類ヲ賣下クヘシ(同上ヲ以テ但書追加)

郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テハ左ノ時間中ハ郵便切手類ノ賣下ヲ謝絶スルコトヲ得ス

自三月一日至十月三十一日 午前六時ヨリ午後十時マテ

自十一月一日至二月末日 午前七時ヨリ午後十時マテ

第七條 郵便電信及電話局所並郵便切手賣下所ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ豫メ日々ノ賣下高ヲ見積リ常ニ相當ノ種類及員數ヲ備ヘ置クヘシ

第八條 三等郵便及電信局ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ所轄一二等郵便電信局郵便局ヨリ買受クヘシ郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ所轄郵便電信局郵便局ヨリ買受クヘシ但シ所轄郵便電信局郵便局ニ於テ差支アルトキハ其ノ承認ヲ受ケ他ノ郵便電信局郵便局ヨリ買受テ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ買受ノ都度其ノ承認書ヲ呈示スヘシ

船舶内ノ郵便切手賣下所ニ於テ寄港地所在ノ郵便電信局郵便局ヨリ隨時郵便切手類ノ買受ヲナサムトスルトキハ豫メ所轄郵便電信局ノ承認ヲ受ケ前項但書ノ例ニ依リ其ノ買受ヲ爲スコトヲ得

第九條 三等郵便及電信局郵便受取所及郵便切手賣下所ニ於テ賣下クヘキ郵便切手類ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

一 三等郵便及電信局ニ對シテハ郵便切手類買受高ノ千分ノ五十

二 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ對シテハ郵便切手類買受高ノ千分ノ三十五

郵便切手類賣下規則

第十條 郵便切手類ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ國稅滯納處分法ニ依リ財產ヲ公賣ニ附スルトキ及監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈惠ノ用ニ充ツルトキニ限り百分ノ十ノ割引ヲ以テ一等郵便電信局ニ於テ之ヲ買戻スコトアルヘシ但シ汚損毀損シタルモノ又ハ効用ヲ闕クヘキ虞アルモノハ此ノ限ニアラス

第十一條 三等郵便及電信局郵便受取所及郵便切手賣下所ヲ買受タル郵便切手類ノ汚損毀損シタルモノ又ハ効用ヲ闕クヘキ虞アルモノアルトキハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ其ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ外三等郵便及電信局郵便受取所及郵便切手賣下所ノ廢止又ハ三等郵便及電信局長並郵便受取所取扱人ノ退職若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セル郵便切手類ハ所轄一等郵便電信局ニ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 前條第一項ノ郵便切手類ハ定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ交換ヲ爲スヘシ但シ天災事變其ノ他避クヘカラサル事故ニ起因スルモノハ額面ヲ以テ交換ヲ爲スコトアルヘシ

前條第二項ノ郵便切手類ハ第九條ノ割引額ニ相當スル金額ヲ控除シ之ヲ買戻スコトアルヘシ
第一項ノ場合ニ於テ割引計算上交換價格ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ五厘以上ハ五厘ヲ以テ計算シ五厘未滿ハ切捨トス

第十三條 第二條第二項ニ依リ郵便切手類ノ賣下ヲ爲サムトスル者ハ郵便切手賣下免許申請書第一號樣式

ヲ作り所轄一二等郵便電信局郵便局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第十四條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手類ノ賣下ヲ許可スルトキハ郵便切手賣下免許證ヲ交付スヘシ

第十五條 郵便切手賣下人ハ自費ヲ以テ郵便切手賣下所標札第二號樣式ヲ調製シ公衆ノ看易キ場所ニ掲出スヘシ但シ船舶内ノ郵便切手賣下所ハ郵便切手類ノ賣下ヲ表彰スヘキ適宜ノ標札ヲ掲出スルヲ得

第十六條 一二等郵便電信局郵便局内ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ハ郵便切手類ノ買受組合ヲ設ケ總代人ヲ置キ其ノ買受ヲ爲スヘシ

前項郵便切手類買受組合ハ郵便受取所及郵便切手賣下所數ノ多寡ニ應シ一組合又ハ數組合ニ分チ所轄一二等郵便電信局長郵便局長之ヲ定ム

郵便區市内ノ郵便受取所及郵便切手賣下所十五箇所ニ滿タサルモノ並郵便區市外ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ハ郵便切手類買受組合ヲ設ケサルモ妨ナシ

第十七條 郵便切手類買受組合總代人ハ郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人中ヨリ互選シ每組合ニ一人ヲ置クヘシ但シ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ遞任大臣ノ認可ヲ受ケ郵便切手類買受組合内ノ郵便受取所取扱人中ヨリ選舉セシムルコトヲ得(同上ヲ以テ但書改正)

總代人ヲ選舉シタルトキハ連署ヲ以テ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ届出認可ヲ受ケヘシ
第十八條 郵便切手類買受組合總代人ノ選舉手續選舉期日及其ノ任期等ハ所轄一等郵便電信局長之ヲ

定ム但シ總代人ノ任期ハ滿一箇年以上三箇年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十九條 一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ郵便切手類買受組合總代人ヲ不適當ト認メタルトキハ更ニ改選ヲ命スルコトアルヘシ第十七條第二項ニ依リ總代人ヲ届出タル場合ニ於テ之ヲ不適當ト認メタルトキ亦同シ

第二十條 郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人ト其ノ郵便切手類買受組合總代人トノ間ニ於ケル郵便切手類及其ノ代金ノ受授並組合ノ費用ニ關スル條件等ハ各其ノ組合ノ協議ヲ以テ之ヲ定メ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 三等郵便及電信局ノ郵便切手類買受回数ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 一箇月賣下高百圓未満

一箇月二回

二 一箇月賣下高百圓以上二百圓未満

一箇月三回

三 一箇月賣下高二百圓以上

一箇月四回

郵便受取所及郵便切手賣下所ノ郵便切手類買受回数ハ其ノ郵便切手類買受組合總代人ヨリ請求スルモノハ毎日一回其ノ他ハ一箇月二回ヲ超ユルコトヲ得ス

前各項ノ制限ニ依リ難キ事情アルモノハ當該局所ノ申請ニ依リ所轄郵便電信局長郵便局長ニ於テ特ニ其ノ買受回数ヲ増加スルコトヲ得臨時多數ノ賣下等アリタルトキ亦同シ

第二十二條 三等郵便及電信局ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サムトスルトキハ郵便切手類買受請求書

第三號 式ヲ作り代金ト共ニ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ差出シ其ノ賣下ヲ求ムヘシ

郵便切手類買受組合總代人郵便切手類買受組合ヲ設ケサル郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サムトスルトキハ前項ト同一ノ手續ニ依リ所轄郵便電信局郵便局ニ其ノ賣下ヲ求ムヘシ

郵便切手類買受組合區域内ノ郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サムトスルトキハ第一項ノ手續ニ準シ郵便切手類買受組合總代人ニ其ノ買受ヲ申込ムヘシ

第二十三條 三等郵便電信局郵便局郵便區市外ノ郵便受取所又ハ郵便切手賣下所ニ於テ豫メ所轄局ノ承認ヲ得タルトキハ其ノ所轄局集配人ニ郵便切手類ノ買受ヲ依託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ郵便受取所取扱人又ハ郵便切手賣下人ハ當該局長ト協議シ郵便切手類買受依託ノ條件並其ノ責任ニ關スル事項ヲ定メ所轄一等郵便電信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人ハ其ノ印鑑ヲ所轄郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ改印又ハ紛失ノトキ亦同シ但シ郵便切手類買受組合ヲ設ケタルモノハ其ノ組合總代人ノ外本條ノ届出ヲ要セス

第二十五條 郵便切手賣下人改姓名ヲ爲シタルトキ又ハ郵便切手免許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ其ノ郵便切手賣下免許證ノ書替又ハ再渡ヲ申請スヘシ

第二十六條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ郵便切手賣下免

許證ヲ書替交付シ又ハ其ノ再渡ヲ爲スヘシ

第二十七條 郵便切手賣下人其ノ住所ヲ移轉シタルトキハ速ニ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

郵便切手賣下人其ノ郵便切手賣下所ヲ移轉セムトスルトキハ三十日以前ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テ他ノ郵便電信局郵便局區内ニ移轉セムトスルトキハ三十日以前ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十八條 郵便切手賣下人廢業セムトスルトキハ三十日以前ニ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

第二十九條 郵便切手賣下人自ラ廢業ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ逃亡失踪若ハ死亡シタルトキハ其ノ家族又ハ親族ニ於テ速ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ

第三十條 郵便集配區劃ノ變更郵便函場ノ廢置郵便切手賣下所ノ位置ノ關係其ノ他郵便切手賣下人ヲ不適當ト認ムル場合ニ於テハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手賣下人ニ廢業ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ第二十七條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ其ノ移轉地ヲ郵便切手賣下所ノ位置ニ適當ト認ムルモノハ郵便切手賣下免許證ヲ書替交付シ其ノ不適當ト認ムルモノハ廢業ヲ命スヘシ

第三十二條 郵便切手賣下人自ラ廢業スルトキ又ハ廢業ヲ命セラレタルトキハ郵便切手賣下免許證ヲ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ返納スヘシ

第三十三條 郵便受取所取扱人及郵便切手賣下人ハ其ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ニ設置シアル郵便函又ハ其ノ近傍ニ設置シアル郵便函ヲ保護スヘシ

若シテヘカササル事故ニ因リ郵便函ノ水火盜難ニ罹リタルトキ又ハ其ノ毀損若ハ郵便物集配時刻表ノ剝脱汚損シタルトキハ速ニ所轄郵便電信局郵便局ニ報告スヘシ

第三十四條 郵便受取所取扱人又ハ郵便切手賣下人郵便函ノ位置ヲ變更スルノ必要アリト認メタルトキハ所轄郵便電信局郵便局ニ申出ヘシ

第三十五條 此ノ規則ニ依リ三等郵便電信局郵便局區内ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ヨリ一等郵便電信局ニ差出スヘキ文書又ハ返納スヘキ郵便切手賣下免許證ハ其ノ所轄三等郵便電信局郵便局ヲ經由スヘシ

一等郵便電信局ヨリ交付スヘキ文書又ハ郵便切手賣下免許證ハ所轄三等郵便電信局郵便局ヲ經由スヘシ

第三十六條 第三十三條及第三十四條ノ文書ハ無料郵便トシテ差出スコトヲ得

第三十七條 第三條乃至第五條ニ違反シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 郵便切手賣下人此ノ規則ニ違背シタルトキハ郵便切手賣下免許ヲ取消スコトアルヘシ

第三十九條 郵便受取所及郵便切手賣下所ニ對シ一二等郵便電信局郵便局ノ有スル職務權限ハ在外郵便受取所及郵便切手賣下所ヲ所轄スル在外郵便電信局郵便局ニ準用ス

第四十條 此規則中郵便受取所ニ關スル規定ハ總テ郵便電信受取所電信受取所及電話所ニ適用ス
郵便及電信受取所ニ吏員ヲ派出シ其事務ヲ取扱ハシムルトキハ郵便受取所ニ於ケル郵便切手類ノ交換買戻及買受ニ關スル規定ヲ適用セス(同上ヲ以テ全條改正)

附則

第四十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十三年^三遞信省令第十一號郵便切手及收入印紙賣下規則並此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第四十二條 此ノ規則施行以前郵便切手賣下所ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ繼續ス

現在ノ郵便切手類買受組合總代人ハ此ノ規則施行ノ爲資格ヲ失フコトナク又其ノ任期ヲ中斷セラレルコトナシ但シ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ現在ノ組合區域ヲ變更スルトキハ此ノ限ニアラス

(様式ハ略ス)

〔参照〕

三十三年遞信省令第七十二號郵便局所收入印紙賣下規則

●電信法

明治三十三年三月
法律第五十九號

電信法

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲グル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ

二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五 一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルチ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限

スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津運河道路橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 故府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條 電信若ハ電話専用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ發行人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示ス其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發行人ニ對シ其ノ電報ニ用キタル祕辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發行人若其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ謝絶ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發行人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ發行人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徴收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受

ケサルニ因テ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリアル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ私設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物ノ建築改築ヲ爲サル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金を免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虚偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス

電信事務ニ從事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脱シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披毀損隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知りテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絕シ又ハ其ノ

傳送ヲ遅延セシメタルトキハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障礙シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

過失ニ因リ通信ヲ障礙シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲キ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以內ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條 第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四十二條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

〔参照〕

三十三年逓信省令第四十六號電報規則

同年同省令第四十八號私設電信規則(別掲)

同年同省令第五十一號官廳用電信電話規程

●電信法ヲ無線電線ニ準用ス

明治三十三年十月
逓信省令第七十七號

電信法ヲ無線電信ニ準用ス

電信法ハ第二條第三條第二十八條及第四十三條ヲ除クノ外之ヲ無線電信ニ準用ス

〔参照〕

三十三年法律第五十九號電信法(前項)

●軍用電信法

明治二十七年六月
法律第五號

軍用電信法

第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關スル通信ヲ爲スモノトス

第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス

軍用電信法

第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス

一 固定軍用電信

二 遊動軍用電信

第四條 固定軍用電信ハ要塞衛戍軍港要港海岸望樓監視哨所其ノ他局地ノ防禦ニ必要ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メ之ヲ建設スルモノトス

固定軍用電信ヲ建設スルトキハ明治二十三年法律第五十八號電信線電話線建設條例ヲ準用ス

第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス

遊動軍用電信ヲ建設スル爲メ民有ノ營造物ヲ徵用シ之ニ必要ノ工事ヲ施スコトヲ得其ノ徵用及損害賠償ノ手續並徵用ニ關スル罰例ハ徵發令ヲ準用ス

第六條 軍用電信ハ最寄私設ノ電信取扱所ニ連接シ又私設電線ノ柱木ニ添架スルコトヲ得

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

第八條 刑法第六十四條及明治十八年第八號布告電信條例第四十八條乃至第六十三條及第七十二條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

第九條 軍用電信ノ事務ニ従事スル者軍用電信ニ關シ「電信條例第五十八條乃至第六十三條」ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏泄シタルトキハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條 軍用電信ニ關シ「電信條例第五十八條及第六十二條」ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

〔參照〕

十九年勅令第二十一號軍用電信ニ係ル妨害者處分ノ件(次項)
三十二年逓信省令第十八號固定軍用電信公衆通信取扱規則

◎軍用電信ニ係ル妨害者處分ノ件

明治十九年四月
勅令第二十一號

軍用電信ニ係ル妨害者處分ノ件

「明治十八年五月第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條」ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス

軍用電信事務ヲ奉スル者「電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條」ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ「電信條例第六十八條第二項」ニ依リ處斷ス

「電信條例第五十八條第六十二條」ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

●水底電信線路ニテ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ

犯ス者處分方

明治十六年二月
布告第五號

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

●海底電信線保護萬國聯合條約罰則

明治十八年七月
布告第十八號

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ追テ布告スヘシ(二十一年勅令第二十一號ヲ以テ二十一年五月一日ヨリ施行スト定ム)
(別冊)

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條 條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第六十四條ノ例ニ照シテ處斷シ其未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
其疎虞懈怠ニ由ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處ス
第二條 疎虞懈怠ニ由リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ其船舶ノ初テ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)ニ二十四時間以内ニ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムテ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ依テ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 條約第五條第一項第二項第三項及第六條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ

第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要求スルトキ之ヲ示スコトヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第三百二十九條ニ照シテ處斷ス

第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繫港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

●私設電信規則

明治三十三年九月
逓信省令第四十八號

私設電信規則

第一條 此ノ法律中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲グル電信又ハ電話ヲ謂フ

第二條 電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ專用ニ供スルモノニ限ル

一 私設電信法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一

個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道又ハ軌道ノ事業

二 運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業

三 高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業

四 前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業

第三條 電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第四條 私設電信ヲ施設セムトスル者ハ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ私設鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ專用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一 施設ヲ必要トスル事由

二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線

三 機械設置ノ場所府縣郡市區町村字番地及線路經過地名

四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

郵接市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施設セムト

スルトキハ第一項書類ノ外之ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條 第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以内ニ左ノ事項ヲ遞信大臣ニ届出ヘシ

一 工事落成月日

二 工事設計種類及箇數、線路ノ長、架空線、水底線ノ別、回線ノ方式、線路ノ種類、木サ及延長並保安裝置方法

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ届出ヘシ

第八條 第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日以内ニ第五條第一項第二號第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ遞信大臣ニ届出ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公衆通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項第二號ニ限り遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私設電信ヲ讓渡サムトスルトキハ第四條但書ノモノヲ鐵道相互間ニ讓渡ス場合ヲ除クノ外當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相互間ニ讓渡シタルトキハ七日以内ニ當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ届出ヘシ

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ私設電信ヲ繼承シタルトキハ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ヘシ

第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢止シ又ハ停止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ヘシ

第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ連接郵便電信局又ハ電信局ニ届出ヘシ

第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

第十三條 道路ニ架設スル私設電信ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニノミ架設スヘシ

二 道路ノ一側ニ電信線電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ若其ノ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ

第十四條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電信線電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ニ障害ヲ與ヘサル様離隔スヘシ其ノ離隔ニ尺ニ滿タサルトキハ其電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條 私設電信ノ電線ヲ電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 交叉ノ場合ニハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用最低電線ノ下部ニ於テ三尺以上ヲ離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ニ限リ其ノ上部ニ三尺以上離隔シテ交叉スルトヲ得

二 接近ノ場合ニハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三尺以上特別高壓電線ニ在リテハ電柱地表上高サノ二倍以上ヲ離隔スヘシ

三 特別ノ事由ニ因リ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ電柱ニ添架スルトキハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ二尺以上特別高壓電線ニ在リテハ四尺以上其ノ最低電線ノ下部ニ離隔スヘシ

第十六條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ裝置ヲ施スヘシ其ノ已ニ架設シタル後ニ於テ交叉接近若ハ添架ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

一 低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ電信又ハ電話線ノ機械ニ出入スル各端ニ於テ五「アムペアー」以下ニテ熔解スル安全器、三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及二百五十「ミリアムペアー」以下ニテ熔解スル安全器ヲ設備スヘシ

二 特別高壓電線ニ在リテハ逓信大臣ノ認可ヲ經タル適當ノ保安裝置ヲ施スヘシ

第十七條 屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條 私設電信ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交又シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事著手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第二十條 電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便電信局又ハ電信局ニ施設スル私設電信ノ引込及裝置工事並其ノ維持ハ逓信省之ヲ執行ス

前項ノ私設電信施設者ハ逓信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金ヲ納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 逓信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改築又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 逓信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第二十三條 私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルト

キハ逓信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條 此ノ規則ニ依リ逓信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄地方廳ヲ經由スヘシ但シ第四條但書ノ私設電信ニ關シテハ其ノ會社本店所在地ノ所轄地方廳ヲ經由スヘシ

第二十五條 第六條第八條但書第九條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタルモノハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條第八條第九條第二項及第三項若ハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十七條 電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條第十八條第二十條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

附則

第二十八條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十三條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號

ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第二十條 前條ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其ノ既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖

第二十一條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年^三遞信省令第四號電信電話線私設條例其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔参照〕 三十三年遞信省令第四十九號私設電信規則第二十條ノ料金額及其ノ納付手續
同年同第五十號私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則

日本刑罰法全書終

增補

東京法論社編纂

第一類 外交

●韓國通用白銅貨ノ偽造變造取締ニ關スル件

明治三十五年十一月
勅令第二百五十六號

第一條 韓國通用ノ白銅貨ハ之ヲ偽造又ハ變造スルコトヲ得ス

第二條 偽造又ハ變造ノ韓國通用白銅貨ハ之ヲ帝國ヨリ輸出シ若ハ之ヲ行使シ若ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ取得スルコトヲ得ス

第三條 第一條及第二條ニ違反シタル者及第一條ノ偽造又ハ變造ノ目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ製造シ又ハ之ヲ帝國ヨリ輸出シ若ハ韓國ニ輸入シタル者ハ一年以下ノ重禁錮若ハ二百圓以内ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治三十五年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二類 内務

第一章 警察

●骨牌税法

明治三十五年四月
法律第四十四號

- 第一條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ
前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所毎ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ
骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ
- 第二條 收税官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス
- 第三條 骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ毎年製造所一箇所毎ニ免許料六十圓ヲ納ムヘシ
免許料納付ノ期限及方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 第四條 骨牌ニハ一組毎ニ二十錢ノ税ヲ課ス
- 第五條 骨牌税ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ税關若ハ保税倉庫ヨリ取引前ニ於テ一組毎ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

- 第八條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ
- 第九條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス
- 第十條 相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ税關又ハ保税倉庫ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス
- 第十一條 收税官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 外國ニ輸出スル骨牌及ヒ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌税ヲ免除ス
- 第十三條 前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條第十六條ヲ適用セス
- 第十四條 骨牌ノ製造ヲ爲ス者ハ免許料ヲ納付セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス
- 第十五條 免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ販賣ヲ爲シタル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス
- 第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ脱税高二十倍ノ

罰金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ脱税高二十倍ノ金額十圓ニ達セサルトキハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 收稅官吏ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條 本法ハ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

附則

第二十二條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條 本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以内ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト見做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀ス
前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十五條 本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條第五條ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ第六條ノ裝置及第七條ノ消印ヲ爲スヘシ

第二十六條 本法ヲ臺灣ニ施行スル迄又ハ臺灣ニ於テ本法ト同一若ハ之ヨリ重キ課稅ヲ爲ス迄ハ臺灣ヨリ本法施行地ニ骨牌ヲ移入スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

●骨牌稅法施行規則

明治三十五年五月
勅令第五百五十四號

第一條 骨牌ヲ製造セシムル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スベシ骨牌製造者製造所ヲ増設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務所ニ提出スヘ

シ骨牌販賣者販賣所ヲ増設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新居所所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三條 骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四條 骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第五條 免許料ハ毎年一月中ニ之ヲ納ムヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ初年ニ限り免許ヲ受ケタル月中ニ之ヲ納ムヘシ

骨牌製造者ハ所轄稅務署ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供シテ六回以下ノ分納ヲ申請スルコトヲ得但シ遅クトモ其年十二月ヲ過クルコト得ス

骨牌製造者免許ノ取消ヲ受ケタルトキハ其ノ納付スヘキ免許料ヲ即納スヘシ

第六條 骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所在地輸入者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第七條 骨牌製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日
- 四 貼用シタル印紙ノ金額
- 五 他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先、小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第八條 骨牌販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額引取ノ日及引取先
- 二 貼用シタル印紙ノ金額
- 三 販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第九條 骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌

ト區別シテ之ヲ設置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ
前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ
第十條 外國輸出ノ承認ヲ得タル骨牌ニシテ承認後六箇月以内ニ於テ輸出セサルトキ又ハ輸出ノ目的
ヲ廢止シタルトキハ骨牌製造者又ハ輸出者ハ直ニ包裹ヲ施シ之ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受
クヘシ

前項ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其氏名又ハ名稱及製造所所在地輸出者ハ之ニ
其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十一條 見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條 骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得ムトスル者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ
所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十三條 骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理入
ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコト
ヲ得ス

附則

第十五條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出
スヘシ

第十七條 前條ノ申告ヲ爲シタル者骨牌稅法施行ノ際同法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルト
キハ之ニ第六條ノ記載ヲ爲スヘシ

第十八條 骨牌稅法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ
免除ヲ得ムトスル者ニ付テハ第九條及第十條ヲ準用ス

第十九條 明治三十五年ニ限り免許料ヲ七月中ニ之ヲ納ムヘシ
第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二章 衛生

●醫藥用工業用酒精稅法施行規則

明治三十四年八月
勅令第三百六十七號

第一條 醫藥用工業用酒精稅法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者酒精使用ノ承認ヲ受ケムト
スルトキハ使用スヘキ數量、使用ノ目的、場所及日時ヲ定メ所轄稅務署ニ申請スヘシ
第二條 前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ハ酒精ノ使用前其ノ數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ使
用ノ承認ヲ與フヘシ但シ申請ノ場所及日時ニ於テ其ノ目的ニ從ヒ使用セスト認ムルトキハ其承認ヲ

取消スコトヲ得

第三條 酒精ヲ醫藥用又ハ工業用ニ使用スルニ際シ作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ稅務署ニ申出テ其ノ數量及含有純酒精ノ容量ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分離シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第四條 醫藥用、工業用酒精戻稅法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル申請書ハ所轄稅務所ニ提出スヘシ

第五條 醫藥用、工業用酒精戻稅法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サルトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 酒精ノ數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二 使用シタル酒精ノ數量、使用ノ目的及使用ノ日

三 製品アルトキハ其ノ種類、數量及其ノ製造ノ日

四 作業中酒精ノ分離シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量

第六條 當該官吏ハ酒精ヲ醫藥用又ハ工業用ニ使用スル者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第三章 社 寺

●神職懲戒令

明治三十五年二月勅令第二十九號

神職ニシテ高等管ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

神官神職懲戒令ハ之ヲ廢止ス

第三類 財 政

●營業稅法中改正法律

明治三十五年三月法律第十八號

營業稅法中左ノ通改正ス

第一條第十三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 鐵道業

第五條ヲ第五條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第十條ヲ第十條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辦業、中立業、仲買業ハ一箇年報酬金額百圓以上ノ者トス

神職懲戒令

營業稅法中改正法律

第十二條業名、課税標準及税率表中「運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繋場業、貨物陸揚業」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鐵道業 〔收入金額千分ノ十從業者一人毎ニ金壹圓〕

同條中「公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業」ノ税率「百圓毎ニ金壹圓」ヲ「千分ノ十五」ニ改ム

第十六條第一項第一號中「賣上金」ノ下ニ「收入金」ヲ加フ

第十七條 納税義務ヲ有スル營業者第十三條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課税標準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準ヲ算定スルコトヲ得

第十八條第四項ヲ削ル

第二十一條第二項中「船舶碇繋場業」ノ下ニ「鐵道業」ヲ加フ

第二十六條中「營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃賃價額」ヲ「課税標準」ニ改ム

第二十七條中「再審査」ヲ「審査」ニ改ム

第二十八條ヲ左ノ如ク改ム

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

第二十八條ノ二 各稅務管理局所轄内ニ營業稅審查委員會ヲ置シ

審查委員ノ定數及審查委員ノ會議ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

審查委員ハ商業會議所代表者及納税義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第二十八條ノ三 收稅官吏ハ審查委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十八條ノ四 營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條第一號中「賣上金額」ノ下ニ「收入金額」ヲ加フ

第三十一條第一項第一號中「賣上金額」ノ下ニ「收入金額」ヲ加フ

附則

本法ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●酒精及ヒ酒精含有飲料稅法施行規則

明治三十四年八月勅令第百六十五號

第一條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及ヒ製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ

酒精及ヒ酒精含有飲料稅法施行規則

提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及ヒ容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其圖面及ヒ目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第三項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若クハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其旨所轄稅務署ニ申告スヘシ酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 酒精及酒精含有飲料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場内ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 酒精及酒精含有飲料稅法第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アルタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
 - 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
 - 三 製造シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量及其ノ製成ノ日
 - 四 他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取先
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條 酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額引取ノ日及引取先
 - 二 販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先
- 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ臨時酒精又ハ酒精含有飲料製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飲料、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ検査スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一 醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

二 濾過、蒸溜又ハ調合ニ著手セムトスルトキ

三 原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

四 酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ

五 自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

六 製造場外ヨリ製造場内ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

第十六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者製造場所在地ニ現住セサルトキハ酒精及酒精含有飲料ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附則

第十八條 本令施行前酒造稅法又ハ混成酒稅法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者

ハ本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條 本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限リ第四條第二項ヲ適用セス

●明治三十四年法律第十號施行規則

明治三十四年八月
勅令第六十六號

第一條 酒精又ハ酒類其ノ他酒精含有飲料ニ付納稅證明書又ハ擔保供提證明書ノ交付ヲ請求セムトスルモノハ其種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル申請書ヲ製造所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 酒精及ハ酒類其ノ他酒精含有飲料ニ付稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セムトスル者ハ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、擔保ノ種類、價格及税金不納ノ場合ニ於テハ其ノ擔保物ヲ以テ税金ノ納付ニ充ツヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條 擔保ハ金錢又ハ有價證券ヲ以テ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第四條 外國ニ輸出スル酒精又ハ酒類其ノ他酒精含有飲料ニ付明治三十四年法律第十號第一條ニ依リ金額下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ少シトモ其ノ種類、數量、含有純酒精ノ容

- 量、査定ノ日、製造場及輸出先ヲ記載スヘシ
- 第五條 前條ノ申告アリタルトキハ税關ハ酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ノ種類、數量及含有純酒精ノ容量ヲ檢定スヘシ
- 第六條 第一條第二條、第四條及第五條ノ場合ニ於テ清酒、濁酒、白酒、味淋、麥酒ニ限リ含有純酒精ノ容量ヲ記載シ又ハ檢定スルコトヲ要セス

●麥酒稅法施行規則

明治三十四年八月
勅令第百六十八號

- 第一條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ
- 製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造場ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第二條 麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トテ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ
- 第三條 麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ
- 前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
- 第四條 麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署

ハ其容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造ノ容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
麥酒製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 麥酒製造者其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 製造石數査定ハ濫過シタル時ニ於テス

第九條 麥酒釀造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

- 三 製造シタル麥酒ノ數量及其ノ製成ノ日
- 四 他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先
小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス
- 第十二條 麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 - 一 引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先
 - 二 販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先
 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス
- 第十三條 收税官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ
- 第十四條 收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得
- 第十五條 麥酒製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收税官吏ノ承認ヲ受クヘシ
 - 一 麥芽汁ヲ醸酵桶ニ入レムトスルトキ
 - 二 醸酵液ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ
 - 三 麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ
 - 四 麥酒ノ殘滓等ヲ用キ更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ
 - 五 麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ

- 六 自己ノ所有ト否トナ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
 - 七 製造場外ヨリ製造場内ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ
 - 第十六條 麥酒製造者製造場所在地ニ現住セザルトキハ麥酒稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ
 - 第十七條 收税官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
- 附 則
- 第十八條 本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限り麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ製造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

● 砂糖消費稅法施行規則

明治三十四年八月
勅令第六十九號

- 第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第二條 製造場ハ敷地ノ連續スルト否トナ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ
- 第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命スルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルヲ要ス

第四條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造着手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セムトスルトキ又同シ

第五條 第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 收稅官吏ハ臨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水、其ノ他原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ

第八條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條 砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ其ノ種類、量目及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條 製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ内地消費ノ目的ヲ以テスルモノト否トテ區別シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 砂糖消費稅法第四條第一項但書ニ依リ消費稅ノ徵集猶豫ヲ請ハムトスル者ハ前條ノ申告ト

同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

第十二條 第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ消費稅ノ徵收猶豫ノ申請アルモノ又ハ直ニ消費稅ノ徵收ヲ要セサルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ金庫所在地外ニ限リ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得
納稅義務者ハ金庫所在地外ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條 砂糖消費稅法第四條及第五條ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及有價證券ニ限ル擔保ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十六條 有價證券ノ價額減少シタルトキハ所轄稅務署ハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十七條 砂糖、糖蜜、糖水製造者、稅關又ハ保稅倉庫砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟又ハ擔保提供濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス

第十八條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二 外國輸入港税關ノ輸入免状又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十九條 砂糖消費税法第四條第二項及第五條第二項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

第二十條 前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十一條 公賣決行前ニ消費税及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條 砂糖消費税法第四條第二項但書及第五條第二項但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十三條 砂糖消費税法第十一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ原料トスヘキ砂糖又ハ糖蜜ヲ製造場ニ移入スルトキ其ノ種類、量目及使用ノ時期ヲ當該官吏ニ申出テ豫メ使用ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ得テ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルトキハ其ノ種類、量目ヲ當該官吏ニ申告スヘシ

第二十四條 前條ノ承認ヲ承ケムトスルトキハ消費税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第二十五條 砂糖消費税法第十一條ニ依リ金額下付ヲ請求スルトキハ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十六條 糖砂、糖蜜、糖水製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニアリテハ引取ノ目及其ノ引渡人住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ日

三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ取引人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十九條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅務支署ノ設アル地方ニ於テハ稅務支署之ヲ行フ

附則

第三十條 砂糖消費税法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ

申告スヘシ

第四類 民刑

第一章 刑事

●明治三十三年法律第七十三號衆議院議員

選舉法施行令

明治三十四年十月
勅令第百八十六號

- 第一條 衆議院議員選舉法第二條ニ依リ市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ管内ニ告示スヘシ
- 第二條 二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
- 一 選舉人名簿ハ每投票區各別ニ之ヲ調製スヘシ
 - 二 各投票區ニ於ケル投票管理者ハ市ニアリテハ地方長官、町村ニアリテハ郡長ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ指名ス此ノ場合ニ於テハ投票管理者ノ内一名ハ市町村長、市町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス
 - 三 市町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ
 - 四 投票ヲ終リタルトキハ市ノ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ遲滞ナク投票函、投票簿及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

投票簿及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

五 市ノ開票所ニ於テハ投票函ノ總テ到着スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第三條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一 投票管理者ハ郡長ニ於テ關係町村長、町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ノ中ニ就キ之ヲ指名ス

二 町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ投票管理者ニ送附スヘシ

第四條 選舉人ノ年齢ハ選舉人名簿調製ノ期日ニ依リ被選舉人ノ年齢ハ選舉ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第五條 郡市町村ノ境界變更アリタル爲選舉人名簿ニ異動ヲ生ジタルトキハ郡市長ニアリテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル郡市ノ郡市長ニ送付シ町村長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル町村ノ町村長ニ送付シ同時ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

町村長ニ於テ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選舉人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ本條ノ例ニ依ル

第六條 前條ニ依リ郡長ニ於テ市長ヨリ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ副本ヲ調製シ關係町村長ニ送付スヘシ

第七條 選舉人名簿縦覽ノ場所ハ郡長及市町村長ニ於テ縦覽期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告示スヘシ

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法施行令

第八條 選舉人名簿其ノ他選舉ニ關スル書類ハ使用ノ時期ヲ經過スルモ選舉若ハ當選ノ効力確定セサル間ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ投票管理者ノ保存スヘキ書類ハ市町村長ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第九條 郡市長ニ於テ投票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其住所氏名ヲ投票管理者ニ通知スヘシ

第十條 投票管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到着番號札ヲ選舉人ニ交付スルコトヲ得

第十一條 投票記載ノ場所ハ選舉人ヲシテ他ノ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用ウルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十三條 投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先テ投票所ニ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖スヘシ

第十四條 投票用紙ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ且ツ投票簿ニ捺印セシメタル後之ヲ交付スヘシ

第十五條 選舉人誤テ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十七條 投票ヲ爲サトスル選舉人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシムル必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ從事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選舉人ニ讀聞カセ選舉人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

前項ノ宣言書ハ之ヲ投票録ニ添付スヘシ

第十八條 選舉人ニシテ投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ投票管理者ハ投票用紙ヲ取上ケ其ノ旨ヲ投票簿ニ記入スヘシ

第十九條 投票所外ニ退出セシメラレタル選舉人ニシテ投票ヲ爲サトスル者アルトキハ投票管理者ハ投票所ノ人口ヲ鎖スニ先テ入場ヲ許スヘシ

第二十條 投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ

第二十一條 衆議院議員選舉法第四十四條ニ依リ選舉長ニ於テ更ニ投票期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ衆議院議員選舉法第三十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 地方長官ニ於テ開票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ開票管理者ニ通知スヘシ

第二十三條 投票ヲ點檢スルトキハ開票管理者又ハ選舉事務ニ從事スル者ニ於テ每票記載ノ氏名ヲ朗讀シ選舉事務ニ從事スル者二名ヲシテ各別ニ同一被選舉人ノ得票ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ開票管理者ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條 開票管理者ハ點檢済ニ係ル投票ノ有効無効ヲ區別シ開票立會人ト共ニ封印ノ上之ヲ保存スヘシ

不受理ノ決定アリタル投票ハ其ノ封筒ト共ニ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スヘシ

第二十六條 開票管理者衆議院議員選舉法第六十一條ノ報告ヲ爲ストキハ開票録ノ謄本ヲ添附シ併セテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ爲シタルトキハ開票管理者ハ各投票管理者ヨリ送付シタル選舉人名簿ヲ關係町村長ニ返付スヘシ

第二十七條 選舉長ニ於テ開票管理者ノ報告書ヲ調査スルトキハ毎開票區得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀シ終ニ各得票者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二十八條 衆議院議員選舉法第六十二條ニ依リ選舉長ニ於テ開票期日ヲ定メタルトキハ地方長官ハ更ニ同法第五十三條ノ手續ヲナスヘシ

第二十九條 選舉人名簿、投票簿、投票ノ用紙及封筒並投票函ノ調製ニ要スル費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十條 選舉長、開票管理者又ハ投票管理者ニ於テ選舉事務ノ爲要スル費用及選舉會場、開票所又ハ投票所ニ要スル費用ハ當該行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十一條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ町村費ヲ以テ支辨スヘキ費用ハ之ヲ各町村ニ平分スヘシ

第三十二條 投票立會人、開票立會人及選舉立會人ニハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得

前項ノ費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十三條 衆議院議員選舉法ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一 地租

二 所得稅 所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク

三 營業稅

第三十四條 衆議院議員選舉法第一條ノ別表ニ於テ獨立ノ選舉區トナシタルモノヲ除クノ外市ハ從前屬シタル選舉區ニ包含スルモノトス

第三十五條 郡市ノ區域ニ屬セサル島嶼ニ於テハ開票區ハ島ノ區域ニ依ル

第三十六條 開票管理者、投票管理者及其ノ代理者故障アルトキハ上級官廳ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第三十七條 衆議院議員選舉法第三條及第六條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第三十八條 北海道ノ札幌區、函館區及小樽區ニ於テハ衆議院議員選舉法其ノ他之ニ關スル法令中市
トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス

●警察署ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セララル者ノ費用

ニ關スル法律

明治三十五年二月
法律第十一號

監獄則第一條ニ依リ警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セララル、モノニ關スル費用ハ總テ警察費ヲ以テ
之ヲ支辨ス但シ其ノ費額ニシテ北海道地方費及府縣ノ負擔ニ屬スル部分ハ命令ノ定ムル所ニ依リ監
獄費ヨリ之ヲ償還スヘシ

附 則

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來監獄所屬ノ物品ニシテ警察署内ノ留置場ニ設備セルモノハ本法施行ノ際之ヲ北海道地方費及府縣
ノ所屬トス但シ警察費ノ國庫支辨ニ屬スル地方ハ此ノ限ニ在ラス

第五類 農 商

欠

MISSING

第一章 商事

●特許法中改正法律

明治三十五年二月
法律第二號

特許法左ノ通改正ス

第十四條中「七箇月以内ヲ條約ニ定メラル期限内」ニ改ム

第二章 勸業

●人工甘味質取締規則

明治三十四年十月
內務省令第三十一號

第一條 人工甘味質トハ「サツカリン」(甘精)其ノ他之ニ類スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ非サルモノヲ謂フ

第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ニハ人工甘味質ヲ加味スルコトヲ得ス

人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
本條ノ規定ハ第三條第一條第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第三條 地方長官ハ治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ人工甘味質ノ使用ヲ許可スルコトヲ得
前項ノ飲食物ハ醫師ノ證明アル者ニ限り之ヲ販賣授與スルコトヲ得

本條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其飲食物ヲ他人ニ代理販賣又ハ請賣セシムルトキハ其ノ氏名及營業

特許法中改正法律

人工甘味質取締規則

所ヲ地方長官ニ届出ヘシ

本條第一項ノ許可ハ地方長官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第四條 前條ノ飲食物ヲ販賣授與スルトキハ容器又ハ被包ヲ用キ其容器又ハ被包ニハ「人工甘味製」ノ

六字ヲ記スヘシ

第五條 地方長官ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ニ關シテ明治三

十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第七條 第二條第一項第二項第三條第三項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第八條 本則ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

增補終

明治三十六年二月廿五日印刷
明治三十六年三月一日發行

刑罰法典附

定價金貳圓

著者兼
發行

東京法論社

東京市小石川區指ヶ谷町十番地

右代表者

後藤本馬

東京市小石川區指ヶ谷町十番地

印刷者

大西鍊三郎

東京市麴町區有樂町三丁目一番地

東京市京橋區弓町二十四番地

印刷所

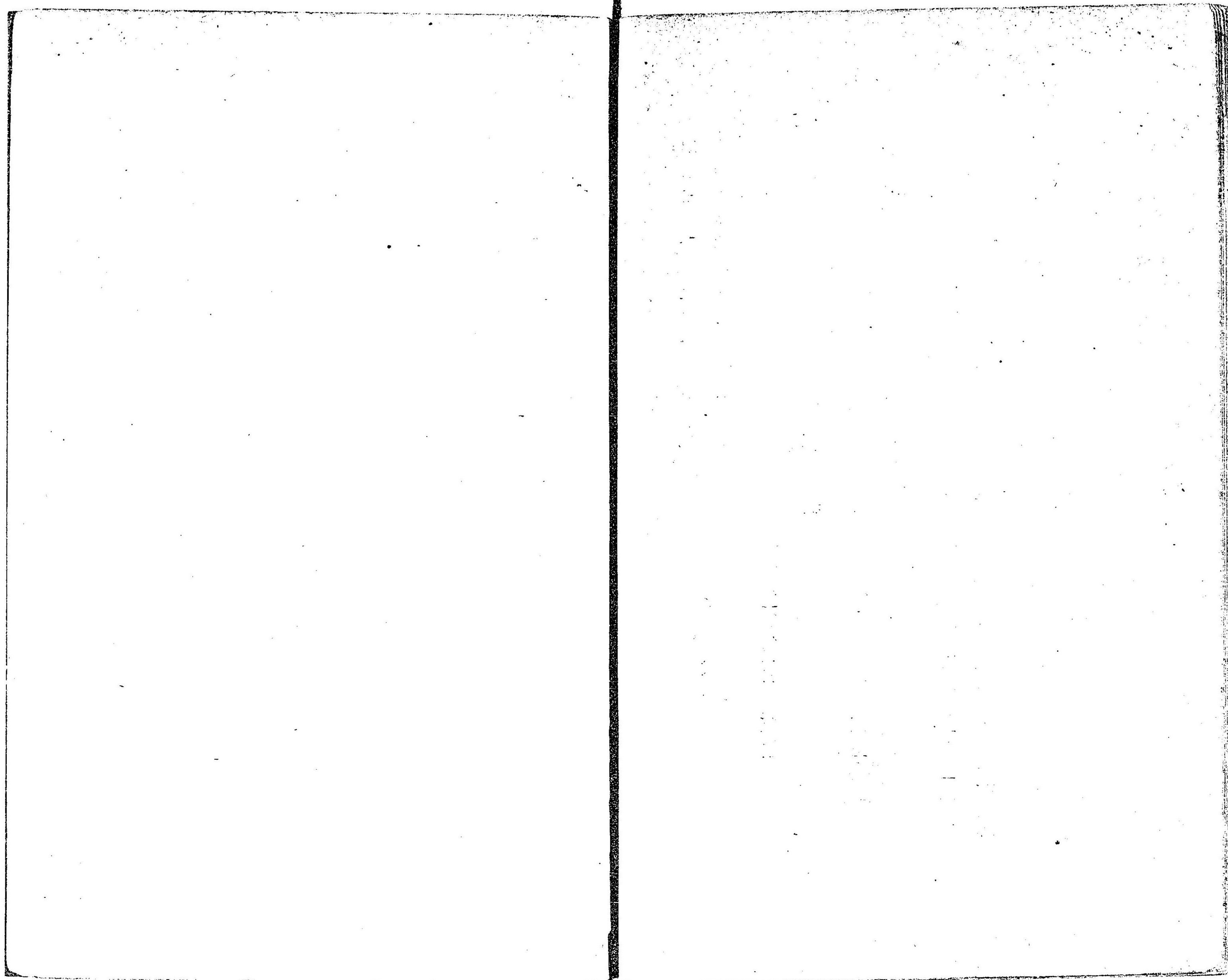
三協合資會社

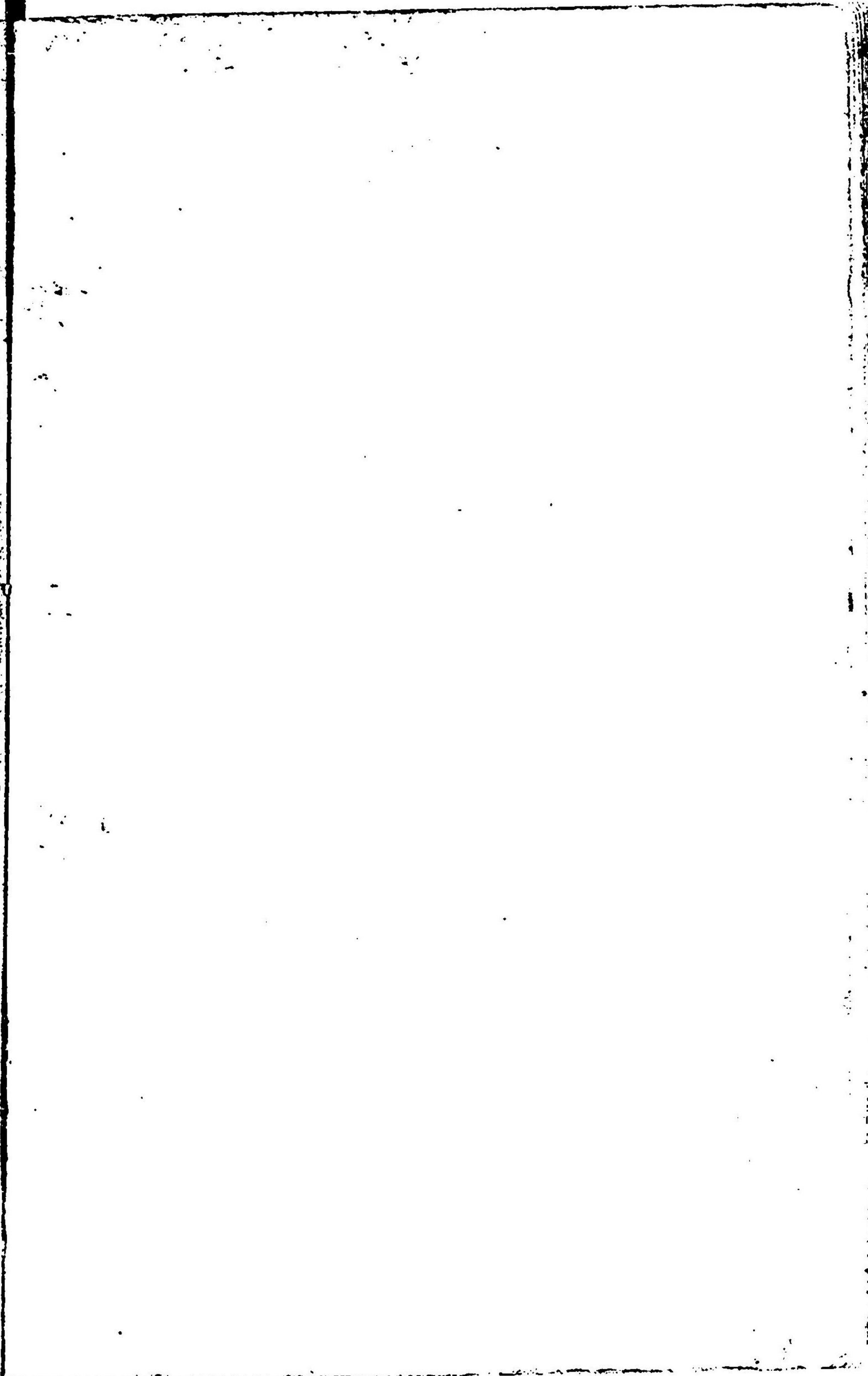
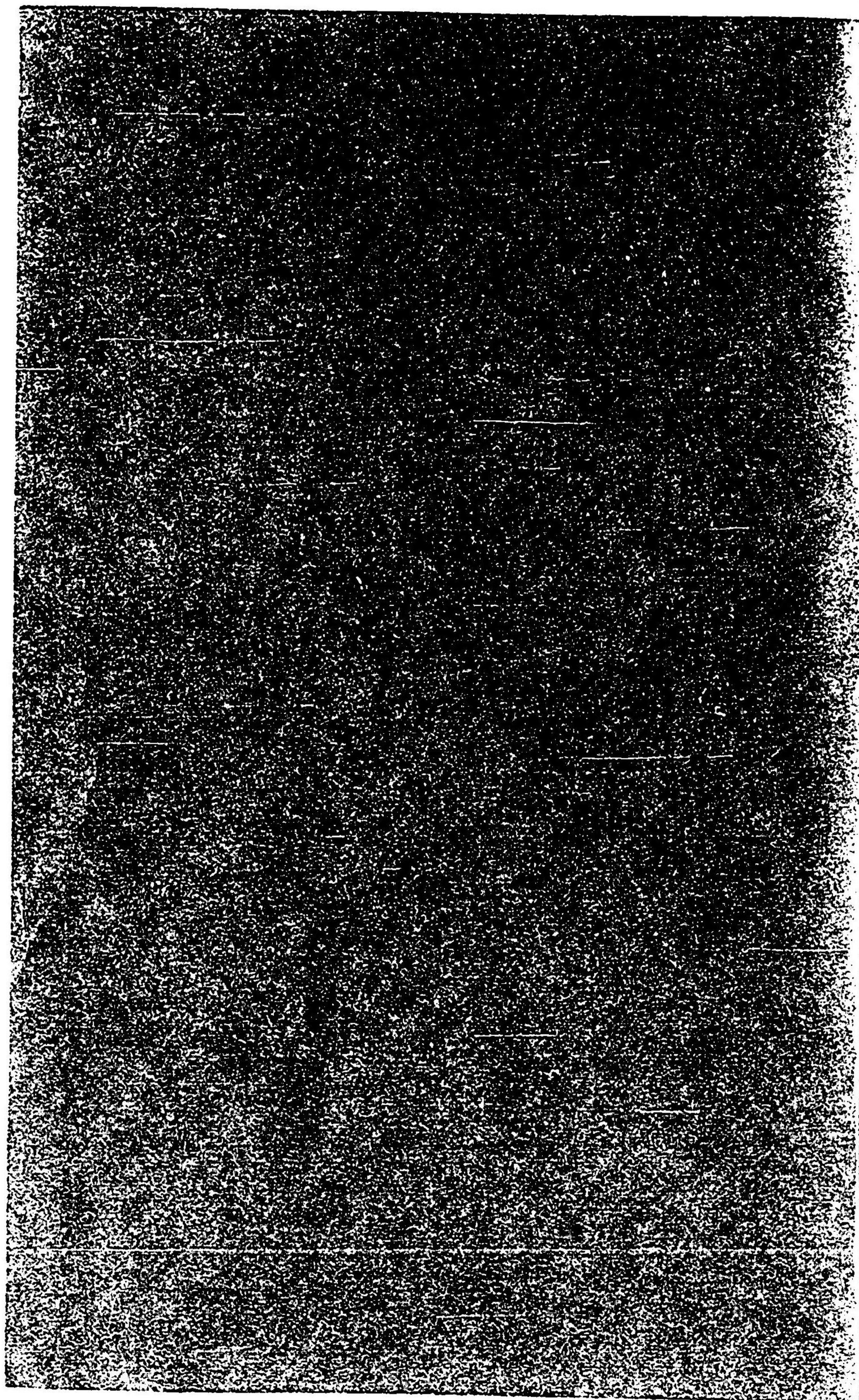
賣捌元

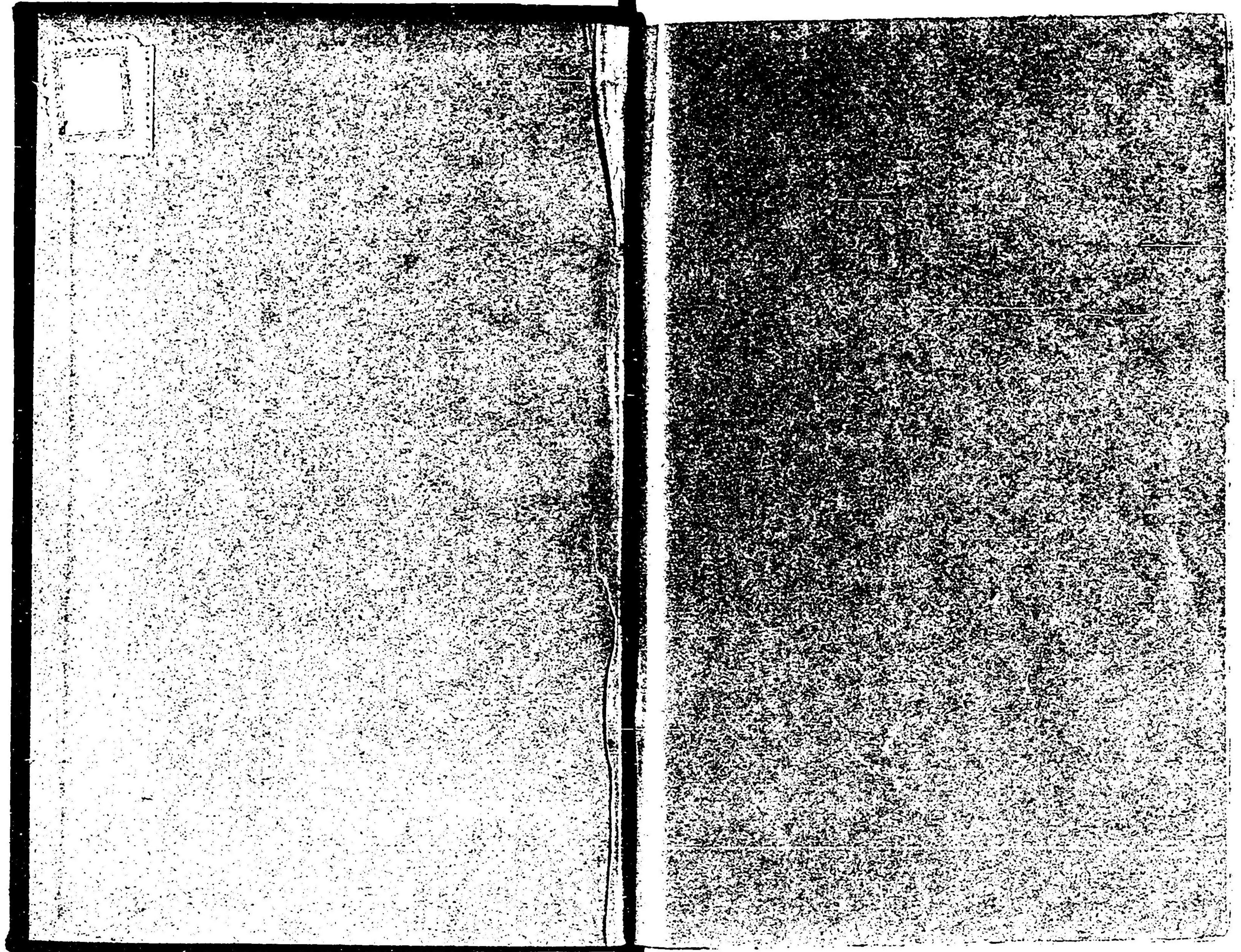
東京市
通油町

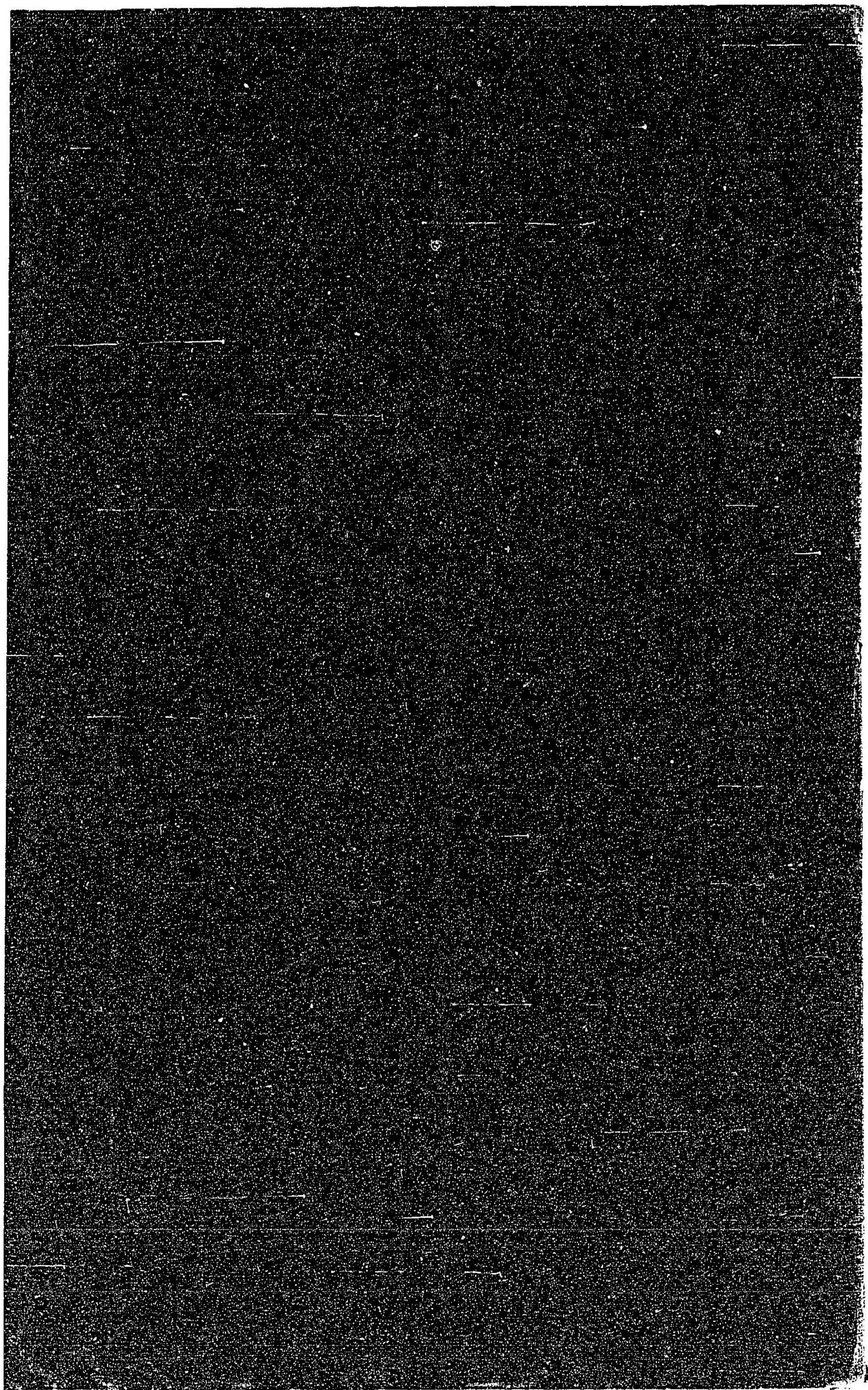
水野書店

電話派花六七三番











036108-000-5

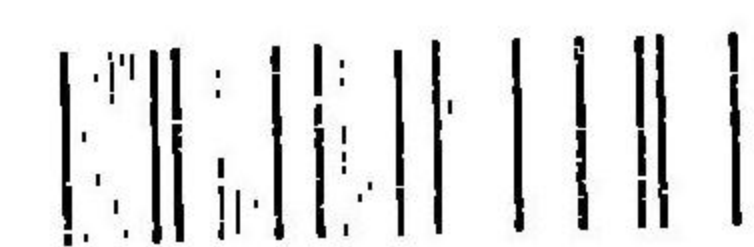
CZ-711-017

日本刑罰法令全書

東京法論社

M36

BBP-0763



18331